

マルチチャンネル AVレシーバー

取扱説明書

準備する

映像や音声を楽しむ

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書とスタートガイド（別紙）をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

警告 安全のために

(→66ページ～70ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

66～70ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。71ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにソニーの相談窓口またはお買い上げ店に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においが
したら、
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ ソニーの相談窓口またはお買い上げ店に相談する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



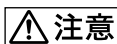
危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く

本機のマニュアルについて

本機には、以下のマニュアルをご用意しています。
それぞれのマニュアルで説明している内容は、下記のとおりです。



スタート
ガイド



取扱説明書
(本書)



ヘルプガイド
(オンライン)

準備する

設置する
接続する
初期設定をする

基本操作

映像や音声を楽しむ

応用操作

映像や音声を楽しむ

応用操作

BLUETOOTH機能を使う
ネットワーク機能を使う
マルチゾーン機能を使う
音響効果を使う
その他の機能を使う
設定を調節する

困ったときは

ご注意／仕様



ヘルプガイドをご覧になるには、下記URLを入力して
ください。

<https://rd1.sony.net/help/ha/strtaan10/ja/>





注意

高温表面

触らないでください。

この取扱説明書の見かた

- 本書では主にリモコンによる操作を説明しています。本体にも同じ名称や類似の名称のボタンがある場合は、本体でも操作できます。
- イラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- 本書では、テレビ画面上の表示は[]、表示窓の表示は「 」をつけて表します。

重要 — 本製品の使用を開始される前に必ず、ソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

お客様による本製品の使用開始をもって、お客様がソフトウェア使用許諾契約書の内容にご同意いただけましたものとさせていただきます。お客様と弊社との間のソフトウェア使用許諾契約書は、弊社ウェブサイト (https://rd1.sony.net/help/vs/el22/h_zz/) でご覧いただけます。

目次

本機のマニュアルについて	4
この取扱説明書の見かた	5
付属品	7
各部名称	8

準備する

スピーカーを設置する	17
スピーカーを接続する	19
ソニー製ワイヤレスリアスピーカー/ サブウーファーとの接続に ついて	27
テレビを接続する	29
AV機器を接続する	34
アンテナを接続する	40
ネットワークに接続する	40
本機の準備をする	41
かんたん設定を使って初期設定を 行う	42

映像や音声を楽しむ

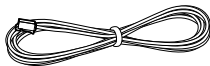
AV機器を再生する／FMラジオを 聞く	45
他の部屋で映像や音声を楽しむ	46
音響効果を楽しむ	48
BLUETOOTHヘッドホンや スピーカーで聞く	54
ネットワーク機能を使って できること	55

その他

消費電力を抑える	57
お買い上げ時の設定に戻す	57
ソフトウェアのアップデートをする ...	57
困ったときは	59
安全のために	66
使用上のご注意	71
保証書とアフターサービス	76
主な仕様	77

付属品

- リモコン(1)
- 単4形マンガン乾電池(2)
- FMアンテナ線(1)



- 測定用マイク(1)



- 測定用マイクスタンド
- マイクスタンド上皿(1)



- マイクスタンド支柱(1)

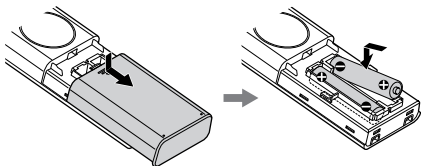


- マイクスタンド台(1)



リモコンに電池を入れる

リモコンに単4形マンガン乾電池(付属)を2個入れます。+と-の向きを正しく入れてください。

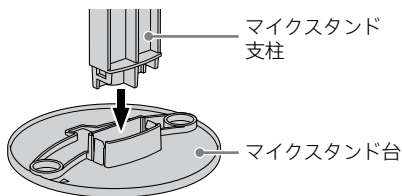


ご注意

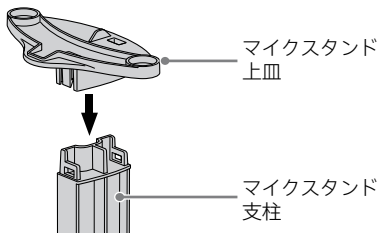
- リモコンを高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい電池を古い電池と一緒に使わないでください。
- マンガン電池と種類の違う電池と一緒に使わないでください。
- 本体前面のリモコン受光部を直射日光または直接光に当てないでください。誤作動の原因となることがあります。
- 電池は液漏れや腐食により破損するおそれがあります。長い間リモコンを使わないときは、電池を取りはずしておいてください。
- リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つとも新しいものと取り替えてください。

マイクスタンドを組み立てる

- 1 マイクスタンド台にマイクスタンド支柱をしっかりと奥まで差し込む。



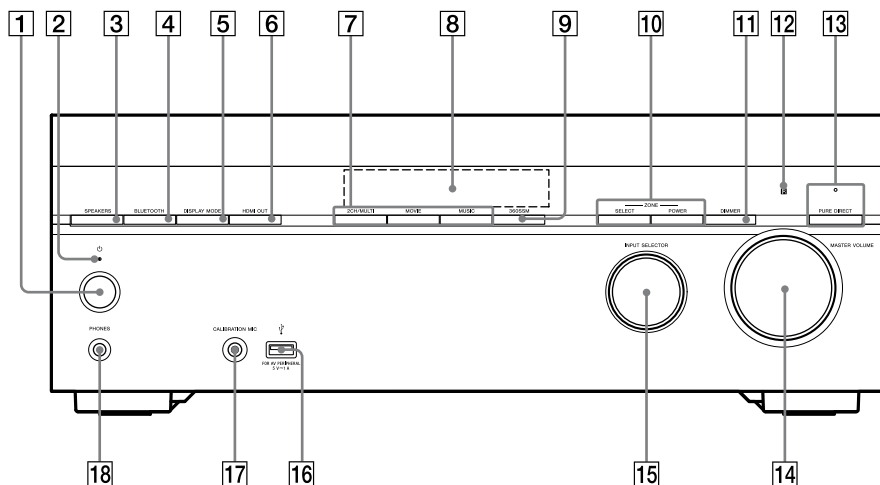
- 2 マイクスタンド支柱の反対側にマイクスタンドの上皿をしっかりと奥まで差し込む。



各部名称

本体

前面



- ① 電源 (電源) ボタン(42ページ)
- ② 電源表示ランプ(9ページ)
- ③ SPEAKERSボタン(44ページ)
- ④ BLUETOOTHボタン
[Bluetoothモード]が[受信]に設定されている場合に働きます。
押すと、BLUETOOTH®入りに切り替えます。
2秒以上押したままにすると、BLUETOOTH機器登録(ペアリング)モードになります。
- ⑤ DISPLAY MODEボタン
表示窓の情報切り替えます。
- ⑥ HDMI OUTボタン
- ⑦ 2CH/MULTIボタン、MOVIEボタン、MUSICボタン(49ページ)
- ⑧ 表示窓(10ページ)
- ⑨ 360SSMボタン
360スペシャルサウンドマッピング機能(48ページ)をオン/オフします。
- ⑩ ZONE SELECTボタン、ZONE POWERボタン
- ⑪ DIMMERボタン
表示窓の明るさを調節します。
- ⑫ リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。
- ⑬ PURE DIRECTボタン
ピュアダイレクト機能を選んでいるときは、ボタンの上のランプが点灯します。
- ⑭ MASTER VOLUMEつまみ(45ページ)
- ⑮ INPUT SELECTORつまみ(45ページ)
- ⑯ USB (USB) FOR AV PERIPHERALポート (AV周辺機器用)
AV周辺機器用のUSBメモリーを接続します。

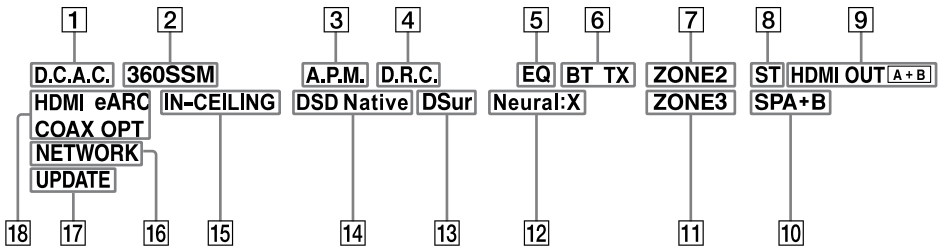
17 CALIBRATION MIC端子(41ページ)

18 PHONES端子
ヘッドホンをつなぎます。

電源表示ランプ

- 緑色：本機の電源が入っています。
- オレンジ色：本機がスタンバイ状態で、以下のいずれかの設定になっています。
 - [HDMI機器制御]、
[ネットワーク/Bluetoothスタンバイ]
を[入]に設定している
 - [スタンバイスルー]を[入]または
[自動]に設定している
 - [ゾーン2]または[ゾーン3]の[機能]を
[入]に設定している
- 消灯：本機がスタンバイ状態で、以下のすべてが[切]の設定になっています。
 - [HDMI機器制御]
 - [スタンバイスルー]
 - [ネットワーク/Bluetoothスタンバイ]
 - [ゾーン2]または[ゾーン3]の[機能]

表示窓上のインジケーター



- 1** D.C.A.C.
D.C.A.C. IX (デジタルシネマ自動音場補正)の測定結果が適用されているときに点灯します。
- 2** 360SSM
360スペーシャルサウンドマッピング機能(48ページ)が働いているときに点灯します。
- 3** A.P.M.
A.P.M. (自動位相マッチング)機能が働いているときに点灯します。自動位相マッチング機能は、D.C.A.C. IX (デジタルシネマ自動音場補正)機能の中でのみ設定できます。
- 4** D.R.C.
ダイナミックレンジ調整が働いているときに点灯します。
- 5** EQ
イコライザーが働いているときに点灯します。
- 6** BLUETOOTH表示
BLUETOOTH機器が接続されているときに「BT」が点灯します。接続操作中は点滅します。
[Bluetoothモード]を[送信]に設定している時は、「BT TX」が点灯します。
- 7** ZONE2
ゾーン2の電源が入っているときに点灯します。
- 8** ST
FMステレオ放送を受信しているときに点灯します。
- 9** HDMI OUT A + B
音声／映像信号を出力しているHDMI OUT端子を表示します。
- 10** スピーカーシステム表示(44ページ)
- 11** ZONE3
ゾーン3の電源が入っているときに点灯します。
- 12** Neural:X
DTS Neural:X処理が働いているときに点灯します。
- 13** DSur
ドルビーサラウンド処理が働いているときに点灯します。
- 14** DSD Native
DSDネイティブ再生をしているときに点灯します。
- 15** IN-CEILING
インシーリングスピーカーモードを使用しているときに点灯します。
- 16** NETWORK
無線LANまたは有線LAN接続されているときに点灯します。

ご注意

スピーカーパターンの設定によっては表示ランプが点灯しない場合があります。

17 UPDATE

新しいソフトウェアがダウンロード可能なときに点灯します。

18 入力表示

現在、本機に入力されている信号を点灯表示します。

HDMI

HDMI入力端子から信号が入力されているときに点灯します。

eARC (ARC)

HDMI OUT A (TV) 端子からeARC信号が入力されているときは「eARC」、ARC信号が入力されているときは「ARC」と点灯します。

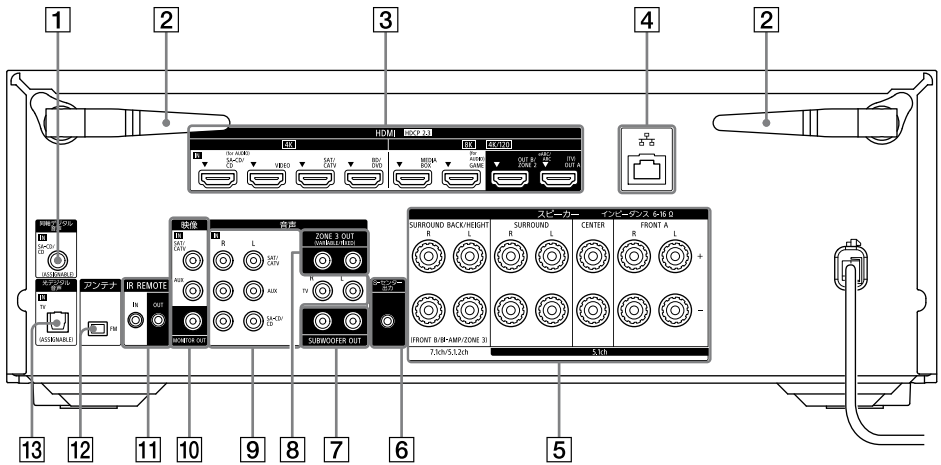
COAX

同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子からデジタル信号が入力されているときに点灯します。

OPT

光デジタル音声IN TV端子からデジタル信号が入力されているときに点灯します。

後面



① 同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子

② 無線LANアンテナ

③ HDMI IN/OUT端子

④ LANポート

⑤ スピーカー端子

⑥ S-センター出力端子 (31ページ)

⑦ SUBWOOFER OUT端子

⑧ ZONE 3 OUT端子

⑨ 音声IN端子

⑩ 映像IN/MONITOR OUT端子

⑪ IR REMOTE IN/OUT端子

- IRリピーター (別売)をIR REMOTE IN端子につなぐと、離れた場所から本機を操作することができます。
- IRブラスター (別売)をIR REMOTE OUT端子につなぐと、本機に接続したCDプレーヤーなどの機器を再生または停止できます。

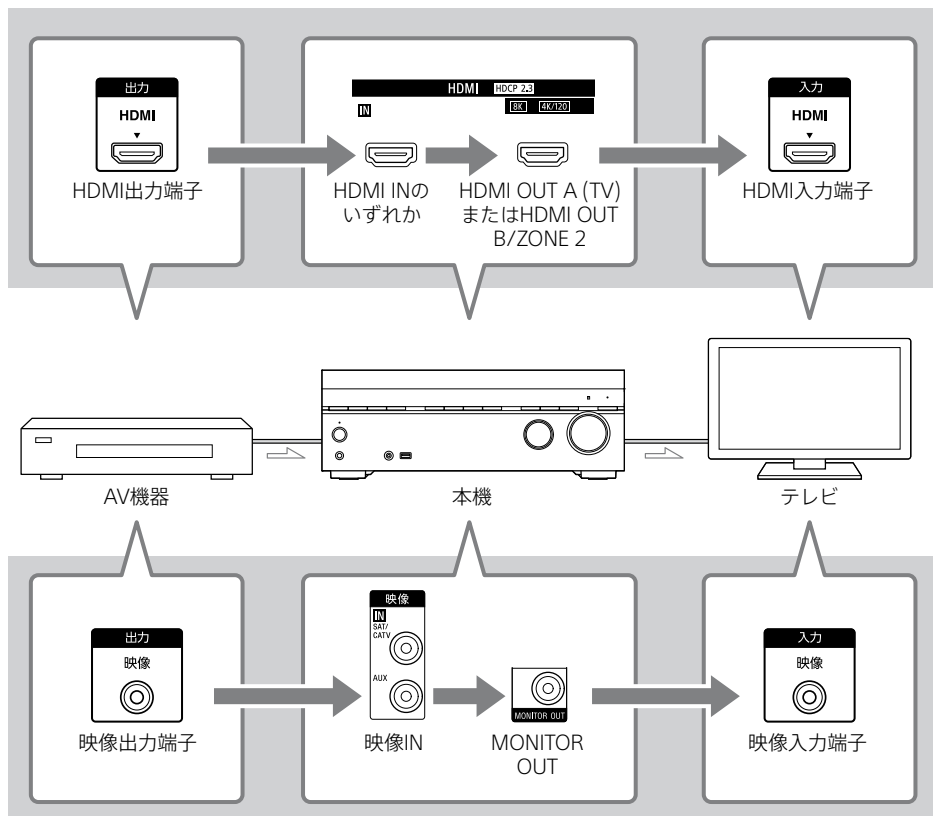
⑫ FMアンテナ端子

⑬ 光デジタル音声IN TV端子

映像信号の入出力について

本機のHDMI IN端子に入力されたデジタル映像信号は、HDMI OUT A (TV)またはHDMI OUT B/ZONE 2端子からのみ出力されます。映像IN端子から入力されたアナログ映像信号は、MONITOR OUT端子からのみ出力されます。

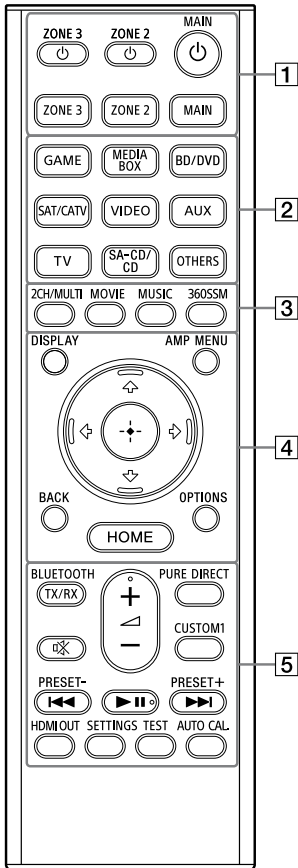
以下の図を参考に接続してください。



ご注意

MONITOR OUT端子につないだテレビには、本機のホームメニューなどの画面は表示されません。テレビ画面の表示を使って本機を操作する場合は、HDMI OUT A (TV) またはHDMI OUT B/ZONE 2端子にテレビをつないでください。

リモコン



- ① ㊤ (電源) ボタン (MAIN、ZONE 2、ZONE 3)
本体、ゾーン2、ゾーン3の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。
- モードボタン (MAIN、ZONE 2、ZONE 3)
それぞれのゾーンの操作モードに切り換えます。ゾーンごとの有効なボタンについては16ページをご覧ください。

- ② 入力切り替え用ボタン
GAMEボタン、MEDIA BOXボタン、BD/DVDボタン、SAT/CATVボタン、VIDEOボタン、AUXボタン、TVボタン、SA-CD/CDボタン、OTHERSボタン
視聴したい機器を接続した入力を選びます。いずれかの入力切り替え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。
- OTHERSボタンは、繰り返し押すことで上記以外の再生ソースを選択することができます。

- ③ 2CH/MULTIボタン、MOVIEボタン¹⁾、MUSICボタン¹⁾
サウンドフィールド (音場) を選びます。

360SSMボタン
360スペシャルサウンドマッピング機能 (48ページ) をオン/オフします。

- ④ DISPLAYボタン
情報をテレビ画面に表示します。

AMP MENUボタン
本機を操作するためのメニューが表示窓に表示されます。

BACKボタン
メニューまたはオンスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているとき、前のメニューへ戻る、またはメニューを閉じます。

OPTIONSボタン
オプションメニューを表示させます。(テレビ入力の場合は、オプションメニューは表示されません。)

⊕ (決定) ボタン、↑/↓/←/→ ボタン
↑、↓、←、→ ボタンを押してメニュー項目を選び、⊕ ボタンを押して決定します。

HOMEボタン
テレビ画面にホームメニューを表示させます。

5] BLUETOOTH TX/RXボタン

[Bluetoothモード]を[送信]または[受信]に切り替えます。

[送信]モードのときは、本機が音声をBLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーに送信します。

[受信]モードのときは、本機が音声を再生機器から受信して出力します。

※ (消音) ボタン

一時的に音を消します。消音を解除するときは、ボタンをもう一度押します。

PURE DIRECTボタン

ピュアダイレクト機能をオンにする。

CUSTOM1ボタン

本機の各種設定を保存、呼び出します。ボタンを短く押して、プリセット登録したカスタム設定を呼び出します。長押しすると現在の設定をプリセット登録します。

◀ (音量) +²⁾/−ボタン

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

◀◀/▶▶ (前へ/次へ) ボタン、

▶▶ (再生/一時停止) ボタン²⁾

スキップ、再生、一時停止の操作を行います。

PRESET +/-ボタン

プリセットした放送局やチャンネルを選びます。押したままにすると、自動的に放送局をスキャンします。

HDMI OUTボタン

HDMI OUT A (TV)およびHDMI OUT B/ZONE 2端子に接続した2台のテレビへの出力を切り替えます。

[HDMI設定]メニューの

[HDMI OUT Bモード]を[メイン]に設定しているときは、ボタンを押すたびに、「HDMI A」、「HDMI B」、「HDMI A+B」および「HDMI OFF」と出力が切り替わります。両端子からの出力をオフにしたいときは「HDMI OFF」を選びます。[ゾーン2]に設定しているときは、ボタンを押すたびに「HDMI A」または「HDMI OFF」に切り替わります。

SETTINGSボタン

[設定]メニューを表示します。

TESTボタン

[テストトーン]の選択画面を表示します。

AUTO CAL.ボタン

自動音場補正機能を開始します。

- 1) 入力信号やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- 2) ▶▶ボタンおよび◀+ボタンには凸点(突起)が付いています。操作するときの目印としてお使いください。

ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

各ゾーンで操作できるボタン

ボタン	リモコンのモード	MAIN	ZONE 2	ZONE 3
⏻ (電源) ボタン ZONE 3、ZONE 2、MAIN		●	●	●
モードボタン ZONE 3、ZONE 2、MAIN		●	●	●
入力切り替え用ボタン GAME、MEDIA BOX、BD/DVD、SAT/ CATV、VIDEO、AUX、TV、SA-CD/CD、 OTHERS		●	●	●
サウンドフィールドボタン 2CH/MULTI、MOVIE、MUSIC		●	—	—
360SSM		●	—	—
DISPLAY		●	—	—
AMP MENU		●	—	—
⬆️ / ⬅️ / ➡️ / ⬆️、⊕ (決定)		●	●*	●*
BACK		●	●*	●*
HOME		●	●*	●*
OPTIONS		●	—	—
BLUETOOTH TX/RX		●	—	—
🔇 (消音)		●	—	●
🔊 (音量) + / -		●	—	●
PURE DIRECT		●	—	—
CUSTOM1		●	—	—
▶️ (再生/一時停止)		●	—	—
⏮️ PRESET -、 ⏭️ PRESET +		●	—	●
HDMI OUT		●	—	—
SETTINGS		●	—	—
TEST		●	—	—
AUTO CAL.		●	—	—

● : 対応

— : 非対応

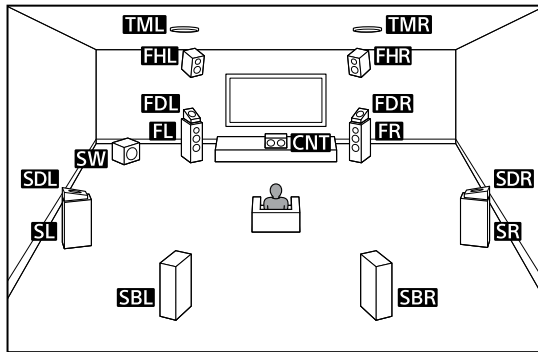
* メインゾーンの本機に接続したテレビのメニューを操作することができます。

準備する

スピーカーを設置する

本機には、最大7台のスピーカーと2台のアクティブサブウーファーを接続することができます。お好みのスピーカーシステムに合わせてスピーカーとアクティブサブウーファーを設置してください。

スピーカーの設置例



ちょっと一言

- アクティブサブウーファー (SW) から出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

図で使われている略称	スピーカー名	機能
FL	フロントLスピーカー	フロントL / フロントRチャンネルの音声を出力します。
FR	フロントRスピーカー	
CNT	センタースピーカー	センターチャンネルの音声(セリフやボーカルなど)を出力します。
SL	サラウンドLスピーカー	サラウンドL / サラウンドRチャンネルの音声を出力します。
SR	サラウンドRスピーカー	
SBL	サラウンドバックLスピーカー	サラウンドバックL / サラウンドバックRチャンネルの音声を出力します。
SBR	サラウンドバックRスピーカー	
SW	アクティブサブウーファー	LFE (低域効果音)チャンネルの音声を出力して他のチャンネルの低音部を補強します。
TML	トップミドルLスピーカー	トップミドルL / トップミドルRチャンネルの音声を出力します。
TMR	トップミドルRスピーカー	

図で使われている略称	スピーカー名	機能
FDL	ドルビーアトモスイネーブルフロントLスピーカー	トップミドルL / トップミドルRチャンネルの音声を出力し、天井に反射させます。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再生します。
FDR	ドルビーアトモスイネーブルフロントRスピーカー	トップミドルL / トップミドルRチャンネルの音声を出力し、天井に反射させます。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再生します。
SDL	ドルビーアトモスイネーブルサラウンドLスピーカー	トップミドルL / トップミドルRチャンネルの音声を出力し、天井に反射させます。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再生します。
SDR	ドルビーアトモスイネーブルサラウンドRスピーカー	トップミドルL / トップミドルRチャンネルの音声を出力し、天井に反射させます。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再生します。
FHL	フロントハイルスピーカー	フロントハイル / フロントハイルチャンネルから音声を出力して高低差のあるサウンド効果を追加します。
FHR	フロントハイRスピーカー	フロントハイル / フロントハイルチャンネルから音声を出力して高低差のあるサウンド効果を追加します。

スピーカーを接続する

ご注意

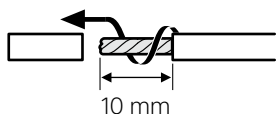
- 本機に接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、 $6\ \Omega \sim 16\ \Omega$ です。
- ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- 電源コードをつなぐ前に、スピーカーケーブルの金属ワイヤーが他の端子と接触していないことを確認してください。
- オートスタンバイ機能付きのアクティブサブウーファーをつないで映画を見るときは、オートスタンバイ機能をオフにしてください。オートスタンバイ機能がオンになっていると、アクティブサブウーファーの入力信号のレベルに合わせて、電源がスタンバイ状態になり、音声が聞こえなくなることがあります。
- 最大2台までのアクティブサブウーファーをSUBWOOFER OUT端子につなぐことができます。

準備する

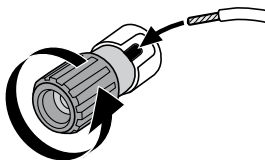
スピーカーケーブルのつなぎかた

スピーカーケーブルをスピーカーおよび本機の端子に正しく接続してください。スピーカーワイヤーはしっかりとねじり、スピーカー端子に確実に差し込んでください。

①

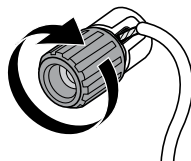


②



③

④



ご注意

- スピーカーケーブルの被覆をむきすぎて、スピーカーワイヤー同士が接触することがないように気をつけてください。
- スピーカーケーブルは、本機側とスピーカー側の極性(+/-)を合わせて正しくつないでください。



- 不適切な接続をすると、本機の故障の原因となることがあります。

スピーカー構成とスピーカーパターンの設定

本機は最大7.1チャンネルまでスピーカーを接続することができます。
次の表はスピーカー構成と設定の例です。接続について詳しくは21～26ページをご覧ください。

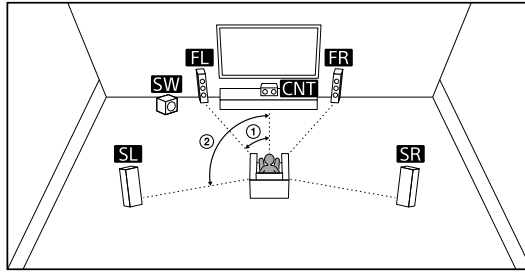
各ゾーンのスピーカー構成		[サラウンドバックスピーカー割り当て] *	[スピーカーパターン]の設定	接続の参照ページ
メインゾーン	ゾーン3			
5.1チャンネル	使用せず	—	[5.1]	21
7.1チャンネル(サラウンドバックスピーカー使用)	使用せず	—	[7.1]	22
5.1.2チャンネル(トップミドルスピーカー使用)	使用せず	—	[5.1.2 (TM)]	23
5.1.2チャンネル(ドルビーアトモスイネーブルフロントスピーカー使用)	使用せず	—	[5.1.2 (FD)]	24
5.1チャンネル	2チャンネル	[ゾーン3]	[5.1]	25
5.1チャンネル(バイアンプ接続)	使用せず	[バイアンプ]	[5.1]	26

* スピーカーパターンをサラウンドバックおよびハイト/オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたとき[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます。

ちょっと一言

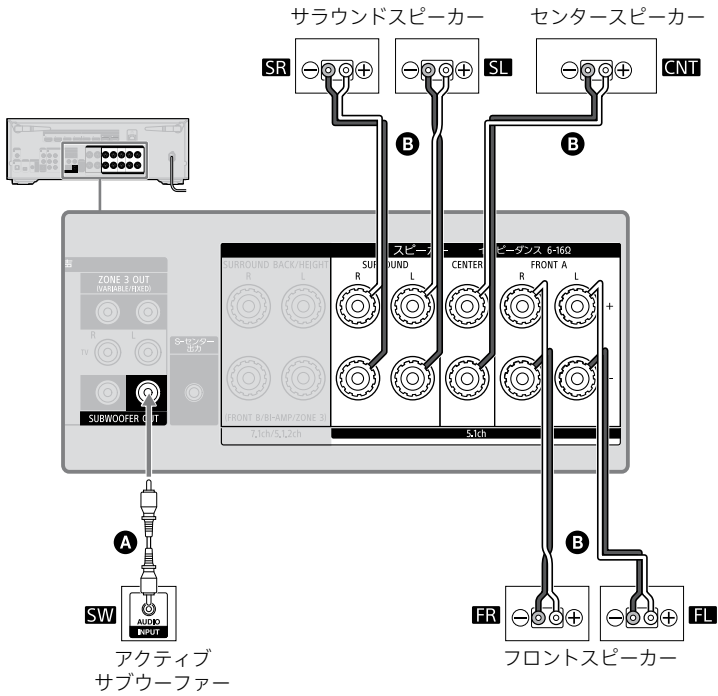
- 本機は別売のソニー製ワイヤレススピーカー/サブウーファーとの接続に対応しています。(27ページ)
- S-センタースピーカー入力端子のあるソニー製のテレビと接続する場合は、音声のセンター成分をテレビのスピーカーから出力することができます。(31ページ)
- [音声設定]メニューの[SPKリロケーション/ファントムSB]を[タイプ A]または[タイプ B]に設定すると、聴感上、最大で7.1.2チャンネル相当のサラウンド効果が楽しめます。
[SPKリロケーション/ファントムSB]の設定を行う場合は、その前に自動音場補正(43ページ)を行ってください。

5.1チャンネルスピーカーシステム



① 30°

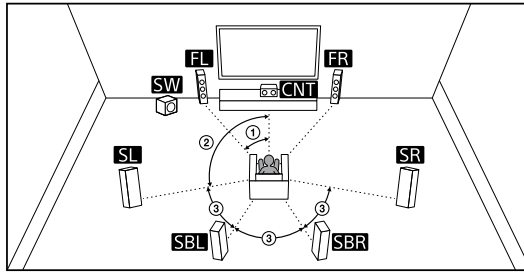
② 100° ~ 120°



Ⓐ モノラル音声ケーブル(別売)

Ⓑ スピーカーケーブル(別売)

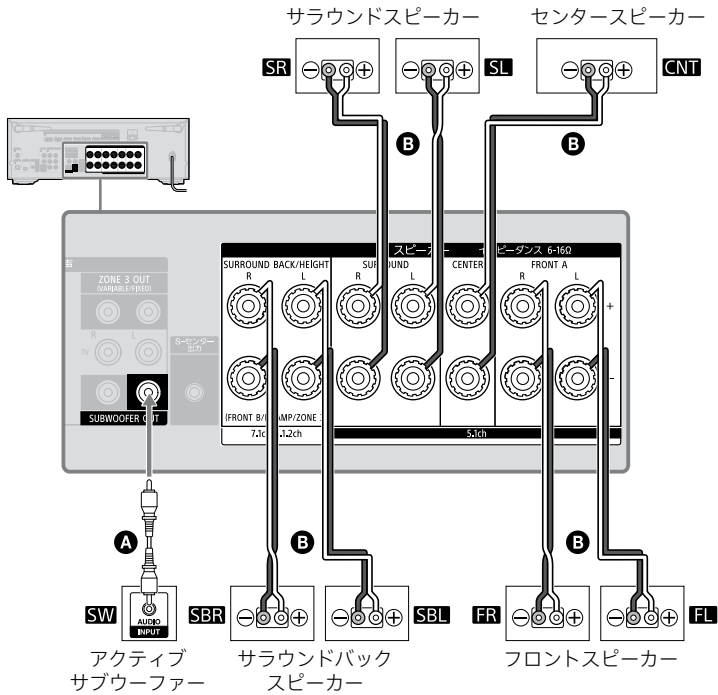
7.1チャンネルスピーカーシステム(サラウンドバックスピーカー使用)



① 30°

② 100° ~ 120°

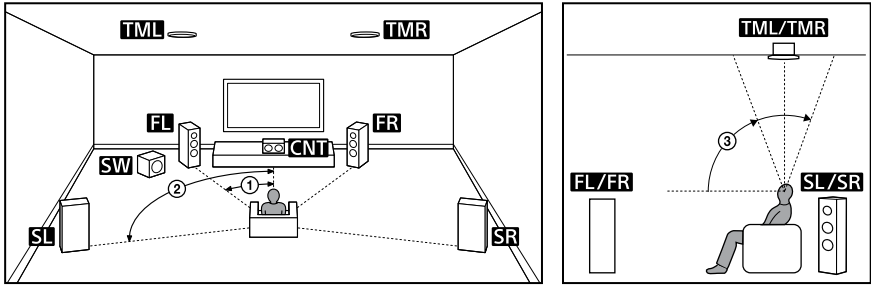
③ 同角度



A モノラル音声ケーブル(別売)

B スピーカーケーブル(別売)

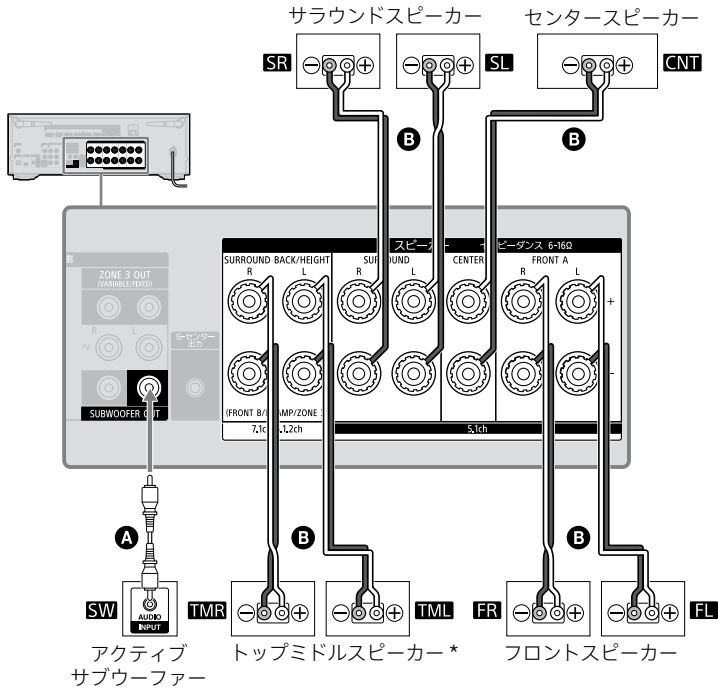
5.1.2チャンネルスピーカーシステム(トップミドルスピーカー使用)



① 30°

② 100° ~ 120°

③ 70° ~ 110°

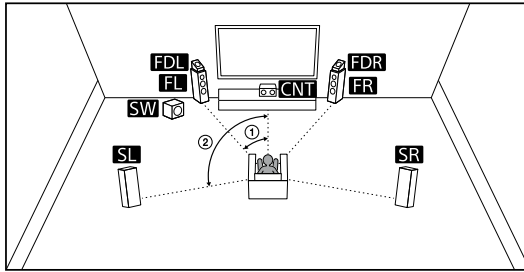


Ⓐ モノラル音声ケーブル(別売)

Ⓑ スピーカーケーブル(別売)

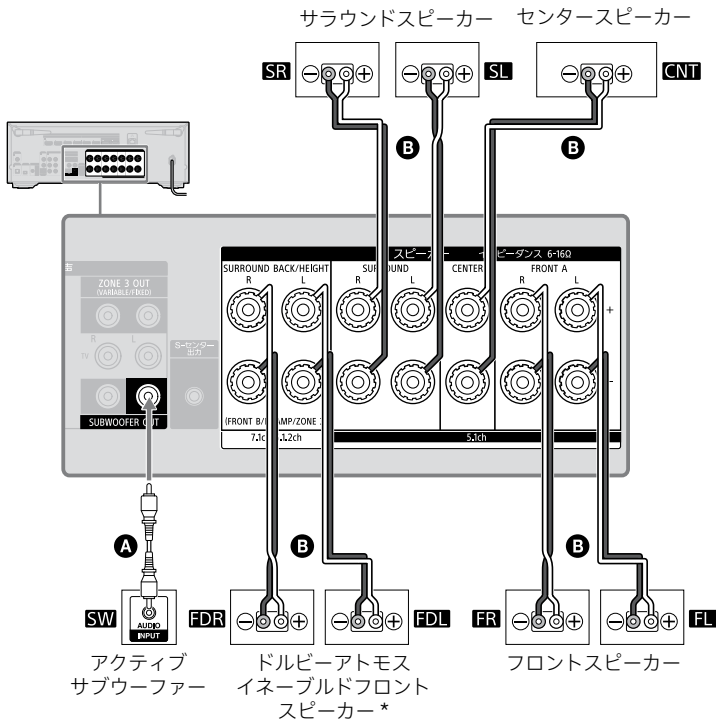
* 接続後、[スピーカー設定]の[マニュアルスピーカー設定]の[スピーカーパターン]で[5.1.2 (TM)]を選んでください。

5.1.2チャンネルスピーカーシステム (ドルビーアトモイネーブルドフロントスピーカー使用)



① 30°

② 100° ~ 120°

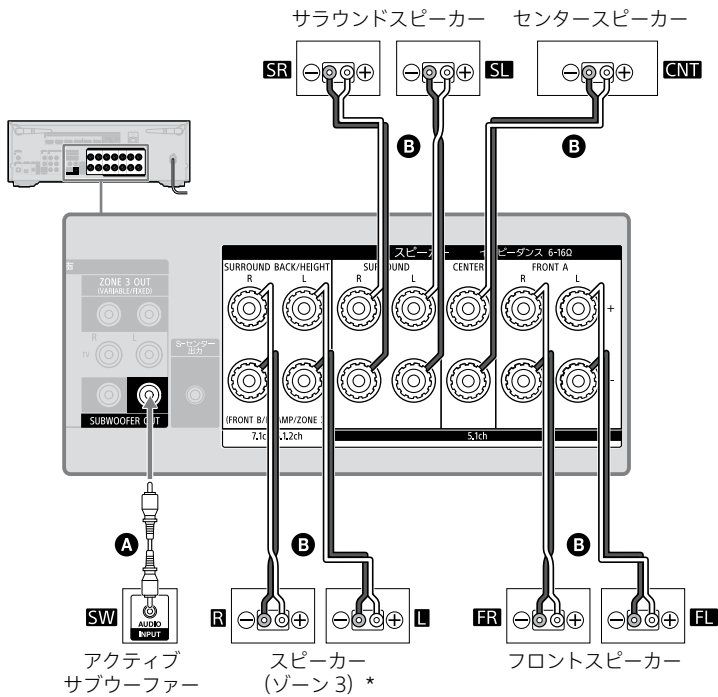
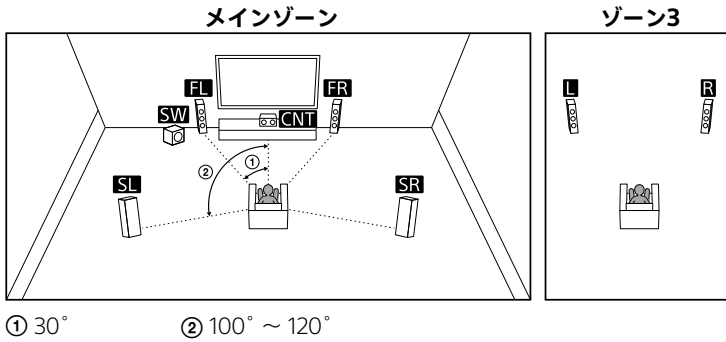


Ⓐ モノラル音声ケーブル(別売)

Ⓑ スピーカーケーブル(別売)

* 接続後、[スピーカー設定]の[マニュアルスピーカー設定]の[スピーカーパターン]で[5.1.2 (FD)]を選んでください。

5.1チャンネルスピーカーシステム(ゾーン3スピーカー使用)



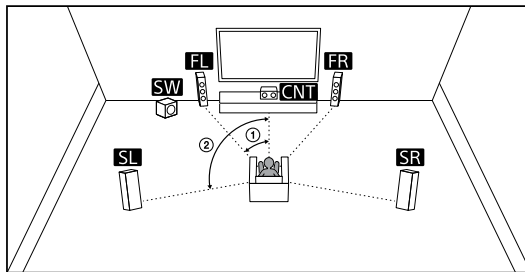
- **A** モノラル音声ケーブル(別売)
- **B** スピーカーケーブル(別売)

* ゾーン3スピーカーの使用方法について詳しくは、「他の部屋で映像や音声を楽しむ」(46ページ)をご覧ください。

準備する

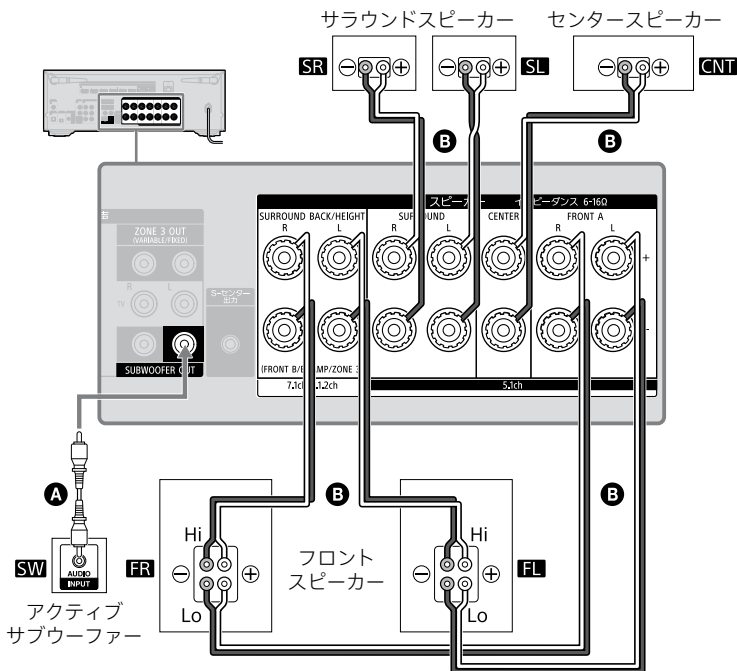
5.1チャンネルスピーカーシステム(バイアンプ接続)

フロントスピーカーが高域(ツイーター)用と低域(ウーファー)用それぞれの入力端子を備えたバイワイヤリング対応スピーカーの場合は、本機のフロント用とサラウンドバック用の2系統のスピーカー端子を利用してバイアンプ接続できます。ツイーターとウーファーを個別のアンプで駆動することによって、より高音質の再生を楽しむことができます。



① 30°

② 100° ~ 120°



A モノラル音声ケーブル(別売)

B スピーカーケーブル(別売)

本機の故障を防ぐため、スピーカーに取り付けられているHi/Loのショート金具を必ず外してください。接続後、[スピーカー設定]の[マニュアルスピーカー設定]の[サラウンドバックスピーカー割り当て]を[バイアンプ]に設定してください。

ご注意

スピーカーパターンをサラウンドバックおよびハイト/オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ、[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます(20ページ)。

ソニー製ワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーとの接続について

本機は別売のソニー製のワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーとの接続に対応しています。

初めて接続するときは、下記の手順を行ってください。

一度接続したソニー製のワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーは、次に電源を入れると自動的に本機と接続されます。

1 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [設定] - [スピーカー設定] - [ワイヤレススピーカー設定] - [手動リンク開始]を選ぶ。

3 別売スピーカーのLINKボタンを押す。

別売スピーカーの電源ランプが緑色に2回ずつ点滅します。

4 [開始]を選ぶ。

手動接続の設定が始まり、接続状況がテレビ画面に表示されます。手動接続を止めるには、[中止]を選びます。

5 つないだスピーカーが[接続済み]になったら、[完了]を選ぶ。

6 ⊕(決定)ボタンを押す。

手動接続が完了し、別売スピーカーの電源ランプが緑色に点灯します。

7 画面の指示に従って自動音場補正を行う。

ワイヤレススピーカーの接続設定が完了すると、[自動音場補正]に誘導する画面が表示されます。

ワイヤレスリアスピーカーを接続した場合は、自動音場補正の[ワイヤレススピーカー割り当て]画面で、[サラウンドスピーカー]、[サラウンドバックスピーカー]のどちらかとして使用するかを選択してください。

ちょっと一言

- 本機に対応しているワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーの機種名はソニーのホームページでご確認ください。
- ワイヤレスサブウーファーを2台接続するときは、同じ機種をお使いください。
- ワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーの操作については、それぞれの機種に付属の取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレス通信が不安定なときは

無線LANなど複数のワイヤレス機器をお使いの場合、本機のワイヤレス通信が不安定になることがあります。この場合、以下の設定を変更することで改善することがあります。

1 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [設定] - [スピーカー設定] - [ワイヤレススピーカー設定] - [ワイヤレス周波数設定]を選ぶ。

3 設定を選ぶ。

- [入]：通常はこの設定にします。自動的にワイヤレス通信に最適な周波数が選ばれます。無線接続時の混信に強いモードです。
- [切]：無線接続時の混信を避けるために、周波数帯を固定します。[入]を選んで音切れする場合は、[切]を選ぶと改善することがあります。

ご注意

[ワイヤレス周波数設定]を[切]から[入]に切り換えた場合、再接続に1分ほどかかることがあります。

テレビを接続する

テレビをHDMI OUT端子またはMONITOR OUT端子に接続します。
HDMI OUT端子に接続した場合のみ、テレビ画面にメニューが表示されます。本機の設定では多くの場合、メニューを使った操作が必要となりますので、HDMI OUT端子を使って接続することをおすすめします。

接続についての注意事項

- ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- テレビとアンテナの接続状態によってはテレビ画面の画像が乱れることがあります。その場合、本機からアンテナを離して置いてください。
- 光デジタル音声ケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。
- デジタル音声端子はサンプリング周波数32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzに対応しています。
- テレビの音声出力を本機の音声IN TV端子(L/R)につないだとき、テレビ側の音声出力レベル設定が「可変」または「固定」を選べる場合は「固定」に設定してください。
- テレビをHDMI OUT B/ZONE 2端子につなぐ場合、[HDMI設定]の[HDMI OUT Bモード]を[メイン]に設定し、HDMI OUTボタンを押して「HDMI B」または「HDMI A+B」を選んでください。[HDMI OUT Bモード]が[ゾーン2]に設定されている場合は、ホームメニューはテレビ画面には表示されません。
- eARC/ARC機能対応のテレビを接続する場合は、本機のeARCまたはARC機能をオンにし、テレビのeARC/ARC対応HDMI入力端子を本機のHDMI OUT A (TV) 端子に接続してください。(30ページ)

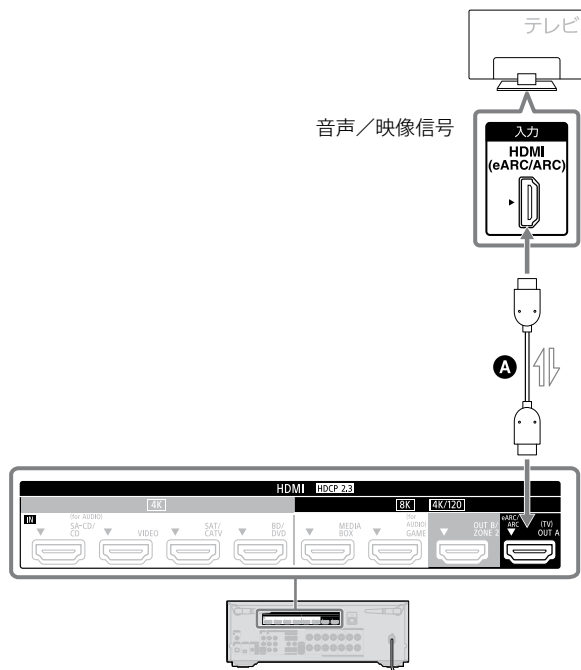
HDMIケーブルについて

- 18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- HDMIケーブルで接続するテレビやAV機器の映像信号の帯域に適したHDMI信号フォーマットを本機のメニューで選んでください。HDMI信号フォーマットの設定について詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルはおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につないだ場合、音声と画像の両方、またはどちらかが失われることがあります。音声为正しく出力されないときは、音声ケーブルまたはデジタル接続ケーブルをそれぞれつなぎ、入力端子を設定し直してください。

HDMI接続でeARCまたはARC機能対応のテレビをつなぐ

HDMI OUT A (TV) 端子にテレビを接続します。

1本のHDMIケーブルをつなぐだけで、本機に接続したスピーカーからテレビの音声を聞くことができます。HDMIケーブルがテレビへの音声/映像信号の出力とテレビからの音声信号の入力を同時に行います。



A HDMIケーブル(別売)

ご注意

- この接続でお使いになるには、eARCまたはARC機能をオンにする必要があります。HOMEボタンを押して、[設定] - [HDMI設定] - [Audio Return Channel] - [eARC]または[ARC]を選んでください。
- テレビ側も設定する必要があります。eARCまたはARC機能をオンにしてください。

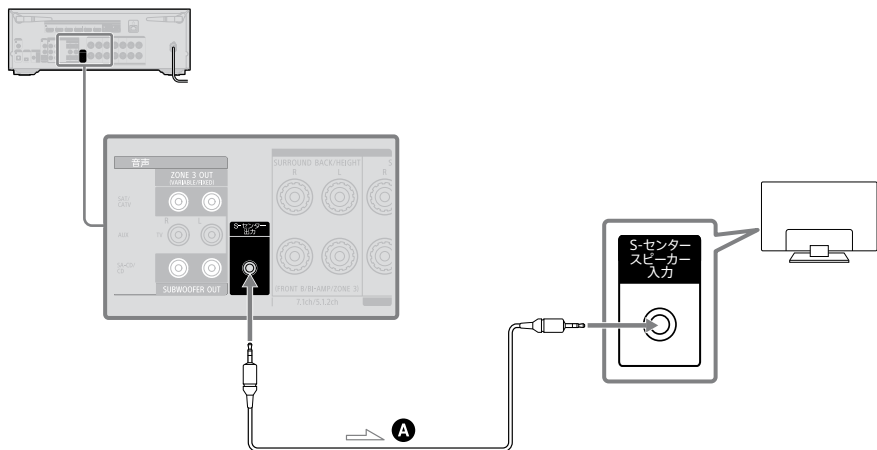
ちょっと一言

テレビのHDMI端子(「eARC」または「ARC」表示のある端子)がすでに他の機器に接続されている場合は、他の機器を外し、本機に接続し直してください。

テレビにS-センタースピーカー入力端子がある場合は

テレビのS-センタースピーカー入力端子をつなぐと、本機のセンター成分の音声をテレビのスピーカーから出力して、テレビ画面内にセリフなどを定位させることができます。(アコースティックセンターシンク機能)

この機能をお使いになる場合は、テレビをHDMI OUT A (TV) 端子に接続する必要があります。また、自動音場補正で[テレビセンタースピーカーモード]を[設定する]に設定してください。



A 3極ステレオミニプラグオーディオケーブル(別売)

ご注意

- サウンドフィールドに[2chステレオ]を選んでいる場合は、テレビのスピーカーから音声は出力されません。
- 音源によっては、テレビのスピーカーから音声が出られないことがあります。
- ヘッドホン使用時、[Bluetoothモード]を[送信]に設定している場合は、テレビのスピーカーから音声は出力されません。

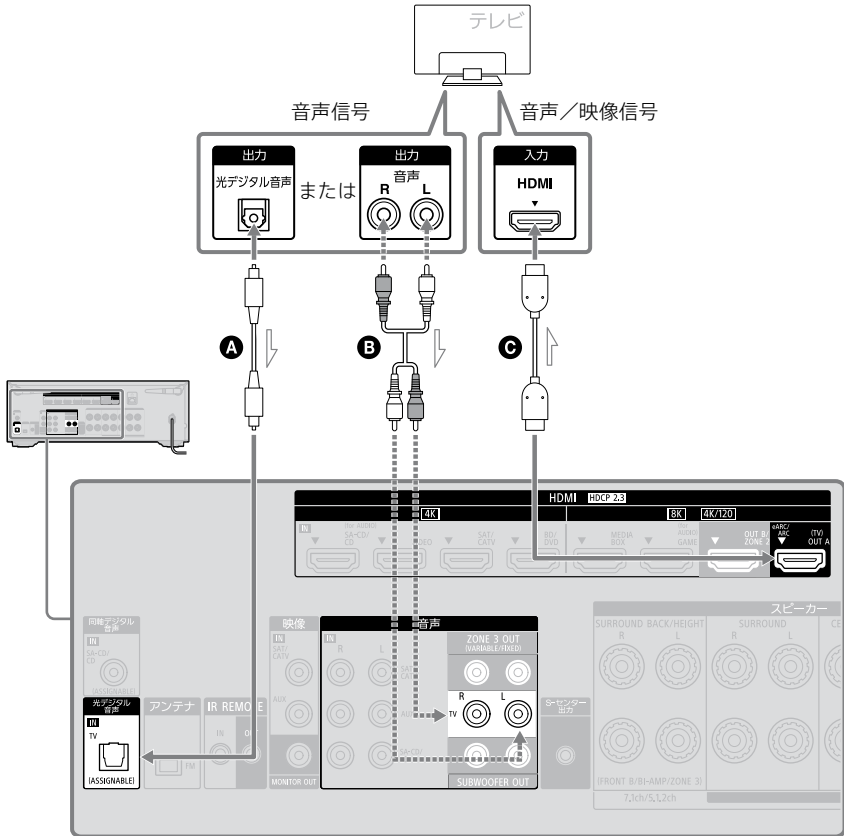
ちょっと一言

- 一部のソニー製のテレビがS-センタースピーカー入力端子を備えています。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 自動音場補正の完了後にテレビを本機のS-センター出力端子に接続したときは、HOMEボタンを押して、[設定] - [スピーカー設定] - [テレビ/スクリーンセンター設定] - [テレビセンタースピーカーモード]を選び、[入]に設定してください。

HDMI接続でeARCおよびARC機能非対応のテレビをつなぐ

HDMI OUT A (TV) 端子にテレビを接続します。

HDMIケーブル^③で接続することによって、テレビへ音声／映像信号を出力できます。ただし、本機に接続したスピーカーからテレビの音声を出すためには、光デジタル音声ケーブル^①または音声ケーブル^②での接続も必要です。



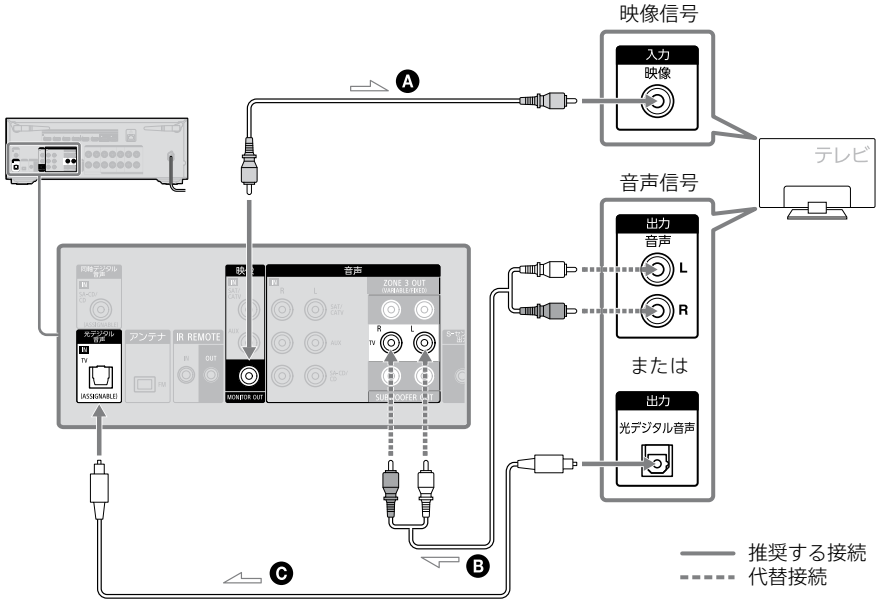
—— 推奨する接続
 - - - - 代替接続

- ① 光デジタル音声ケーブル(別売)
- ② 音声ケーブル(別売)
- ③ HDMIケーブル(別売)

HDMI端子を使わずにテレビをつなぐ

MONITOR OUT端子にテレビを接続します。

映像ケーブル **A** の接続に加え、光デジタル音声ケーブル **C** または音声ケーブル **B** での接続が必要です。



- A** 映像ケーブル(別売)
- B** 音声ケーブル(別売)
- C** 光デジタル音声ケーブル(別売)

ご注意

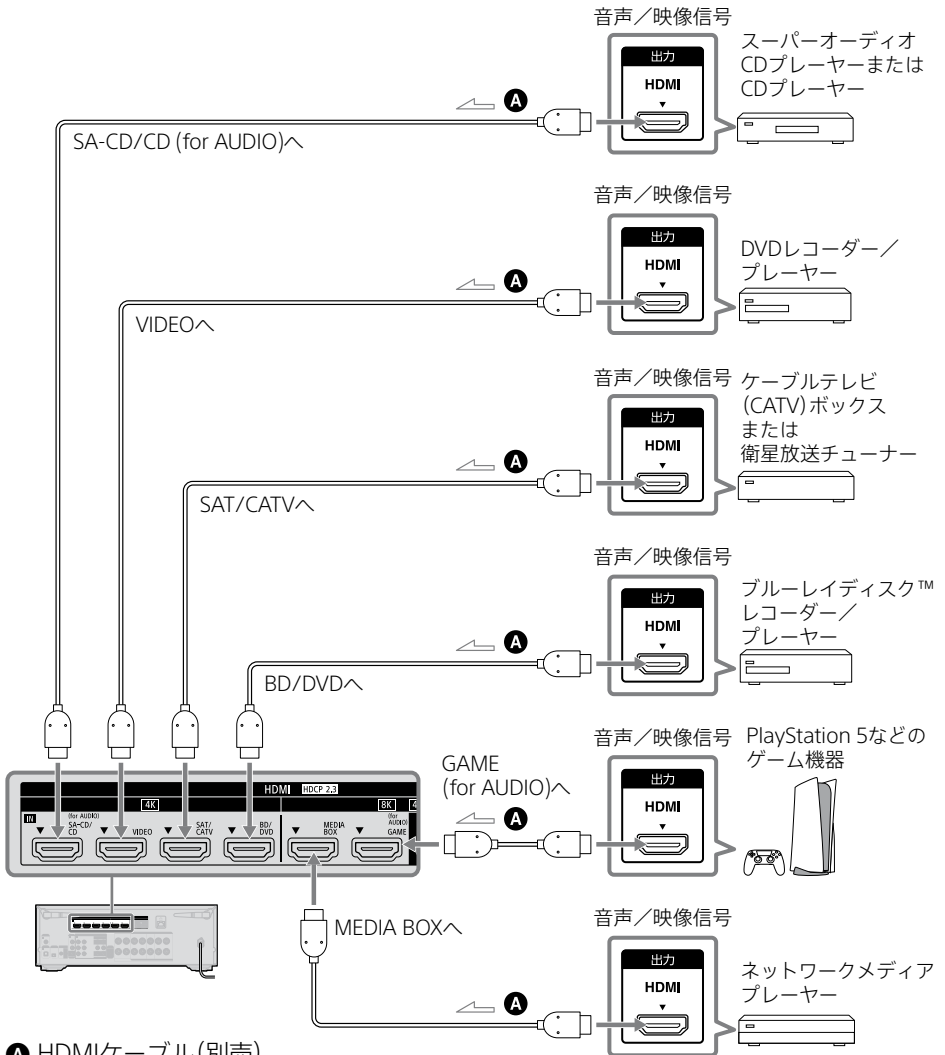
- 上記の接続を行った場合は、映像IN端子につないだ機器からの映像のみテレビ画面に表示されます。
- 上記の接続を行った場合は、メニュー表示ができません。メニューを使って操作するには、HDMI接続が必要です。

AV機器を接続する

HDMI端子を使って機器を接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

次の図は各機器の接続例です。お使いの機器の映像信号に対応したHDMI端子に接続してください。



HDMI端子が対応している映像信号について

接続図は一例です。お使いの機器の映像信号に対応したHDMI端子に接続してください。

HDMI入力端子	接続する機器	
SA-CD/CD (for AUDIO)*	4K	4K/60pまでの映像信号に対応している機器を接続します。
VIDEO*		
SAT/CATV		
BD/DVD		
MEDIA BOX	8K	8Kまたは4K/120pまでの映像信号に対応している機器を接続します。
GAME (for AUDIO)	4K/120	

* パソコンを接続する場合は、4K/30pまでの映像信号に制限されます。その場合は、SAT/CATV端子、BD/DVD端子、MEDIA BOX端子、GAME (for AUDIO)端子のいずれかに接続すれば、4K/60pの映像をお楽しみいただけます。

ご注意

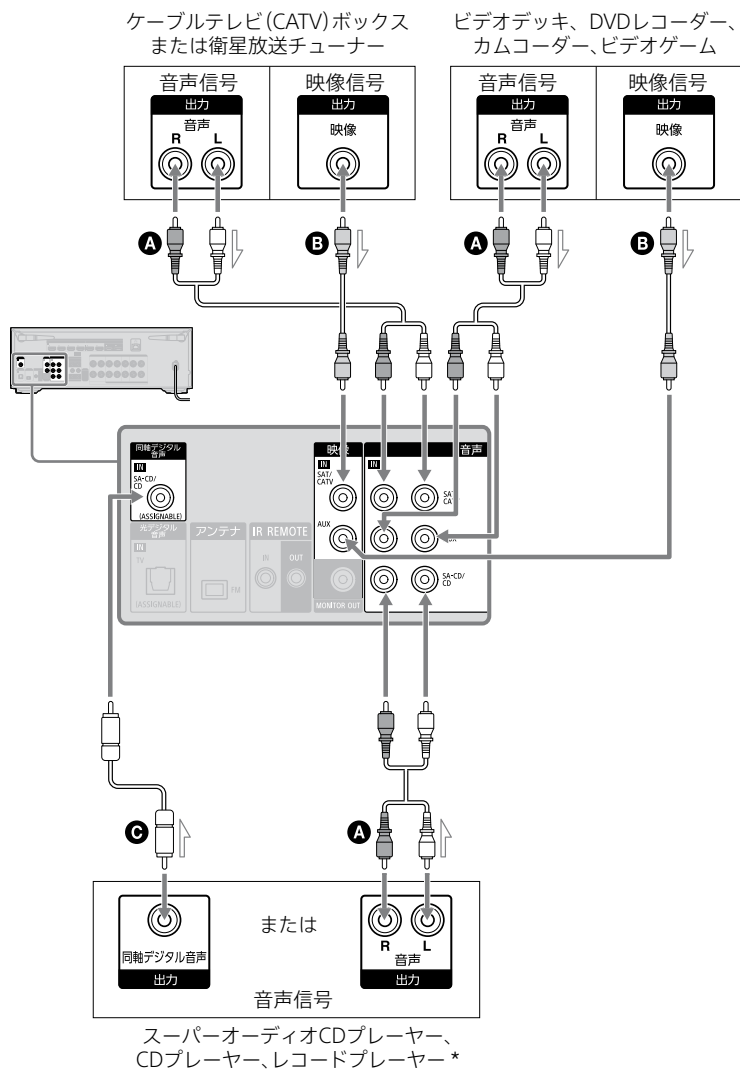
ゾーン2で再生できる映像信号については、「ゾーン2 / ゾーン3で選択可能な入力と機能制限」(47ページ)をご覧ください。

ちょっと一言

- 画質は接続端子の種類によって異なります。お使いの機器にHDMI出力端子がある場合は、HDMI接続をおすすめします。
- お使いのテレビのeARC/ARC対応HDMI端子が8Kや4K/120pの映像入力に非対応で、お使いの機器の8Kや4K/120pフォーマットの映像を視聴したい場合の接続方法については、ヘルプガイドをご覧ください。

HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



- Ⓐ 音声ケーブル (別売)
- Ⓑ 映像ケーブル (別売)
- Ⓒ 同軸デジタル音声ケーブル (別売)

* フォノ (PHONO) 出力端子しかないレコードプレーヤーを接続する場合は、レコードプレーヤーと本機の間にはフォノイコライザー (別売) をつなぐ必要があります。

ご注意

音声IN端子につないだ機器の音声を聞く場合は、同じ機器名 (SAT/CATV、TV、SA-CD/CD (for AUDIO) など) が記されている HDMI IN 端子および同軸デジタル音声 IN SA-CD/CD / 光デジタル音声 IN TV 端子には何もつながないでください。

ちょっと一言

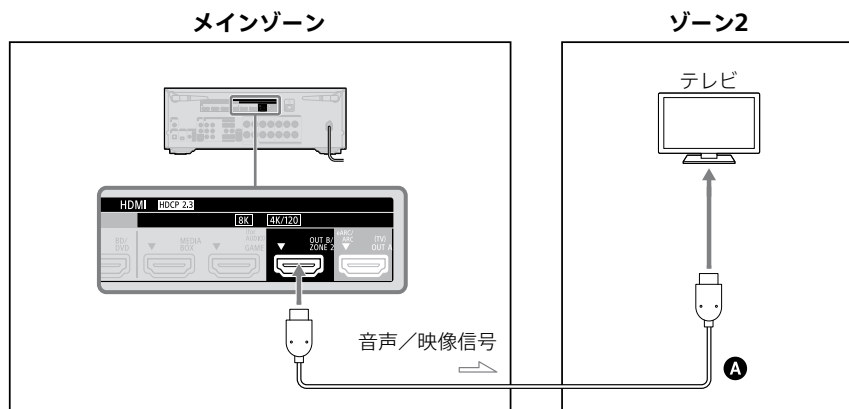
- 音声INの各端子 (SAT/CATV、AUX、SA-CD/CD) には、表示されている以外の機器も接続することができます。
- それぞれの入力の名前を変えて本機の表示窓に表示させることもできます。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

ゾーン2に設置したもう1台のアンプまたはテレビを接続する

HDMI 入力の映像 / 音声信号は HDMI OUT B / ZONE2 端子を使ってゾーン2に出力されま

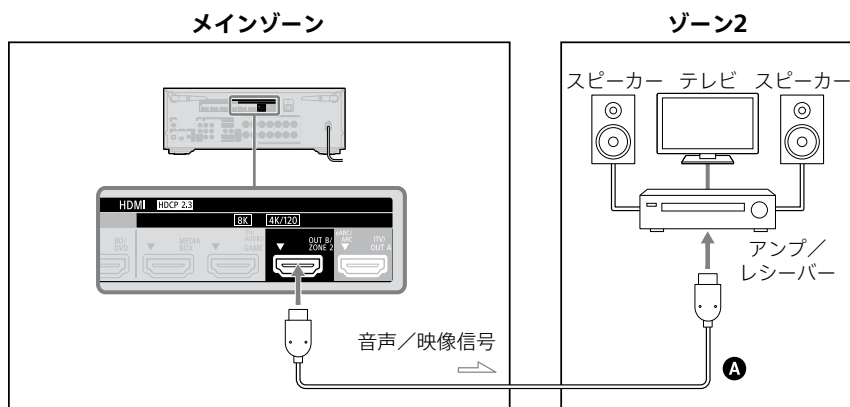
す。ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

ゾーン2のテレビにのみつなぐ場合



A HDMIケーブル (別売)

ゾーン2のアンプにつなぐ場合



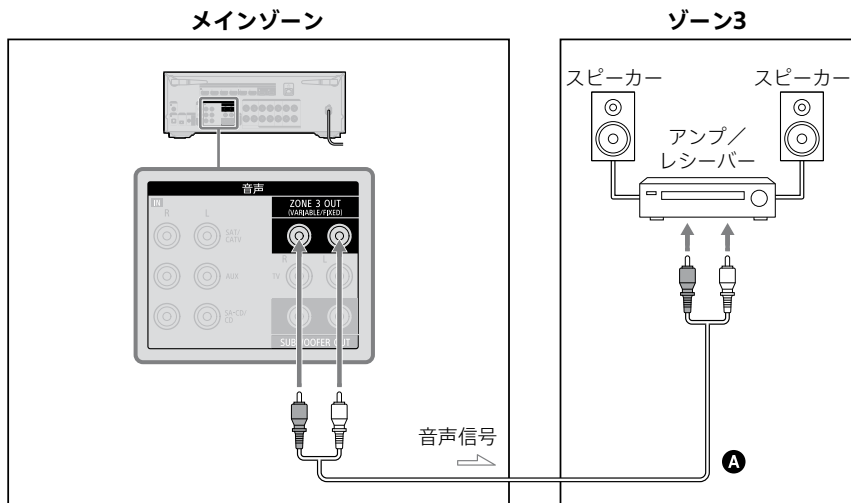
A HDMIケーブル(別売)

ご注意

- この接続をする場合は、[HDMI設定]メニューの[HDMI OUT Bモード]を[ゾーン2]に設定します。
- ゾーン2で再生できるのはHDMI IN端子からの入力のみです。[SOURCE]を選択しているときは、メインゾーンで選択中のHDMI IN端子の映像と音声再生されます。
- ゾーン2で選択できる入力の音声信号は、HDMI OUT B/ZONE 2端子に接続したアンプ/レシーバーにそのまま出力されるため、本機側では音量は調節できません。HDMI OUT B/ZONE 2端子に接続したアンプ/レシーバー側で音量を調節してください。

ゾーン3に設置したもう1台のアンプを接続する

メインゾーン以外のゾーンで、本機につないだ機器の音声を楽しめます。例えば、メインゾーンではDVDを視聴し、ゾーン3ではCDを聞くことができます。
ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



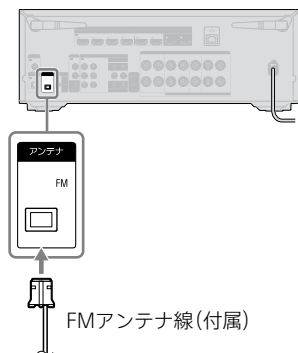
A 音声ケーブル(別売)

ご注意

- [USB]、[Home Network]、[Bluetooth Audio]、[Chromecast built-in]、[Spotify]、[AirPlay]をゾーン3で楽しむ場合は、ゾーン3の入力として[SOURCE]を選択し、メインゾーンの入力を切り替えてください。
- ゾーン3では、4つの外部入力(SAT/CATV、AUX、TV、SA-CD/CD)とFMラジオ、[SOURCE]から入力を選択できます。外部入力を選択したときは、音声IN端子につないだ機器の音声が再生されません。BLUETOOTHなど他の入力を再生する場合や、光デジタル音声IN TV端子、同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力を再生する場合は、メインゾーンで対象の入力を選び、ゾーン3に対して[SOURCE]を選択してください。
- [音声設定]の[DSDネイティブ再生]を[入]に設定すると、[USB]および[Home Network]のDSDコンテンツの音声がゾーン3のスピーカーからは出力されません。

アンテナを接続する

付属のFMアンテナ線を接続してください。
必ず電源コードを抜いた状態で、アンテナ線を接続してください。



ご注意

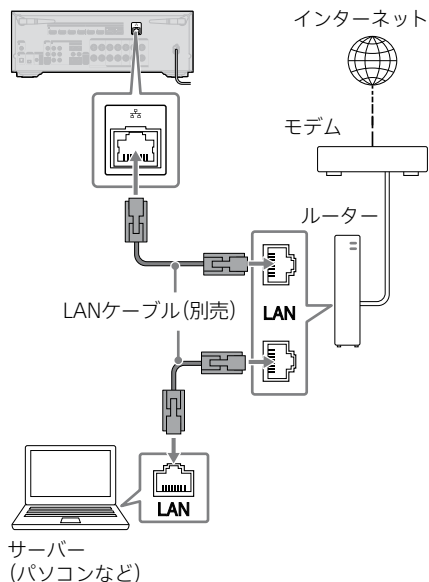
- FMアンテナ線を完全に伸ばしてください。
- FMアンテナ線は、できるだけ水平になるように設置してください。

ネットワークに接続する

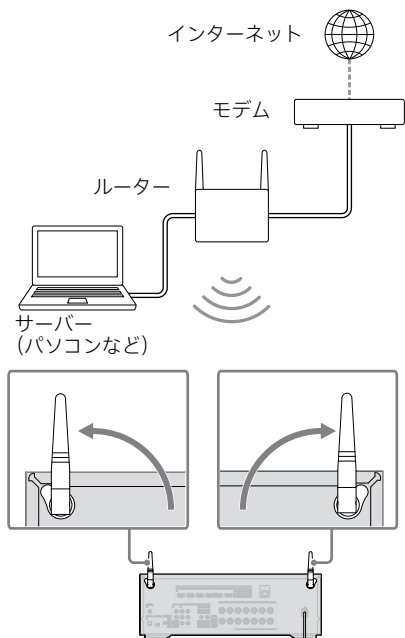
お使いのLAN (Local Area Network) 環境に応じて接続方法を選びます。
下図は本機とサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。

有線LAN接続で使用するには

サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。LANケーブル* (別売) を使って本機をネットワークに接続します。



* カテゴリー7のケーブルをおすすめします。



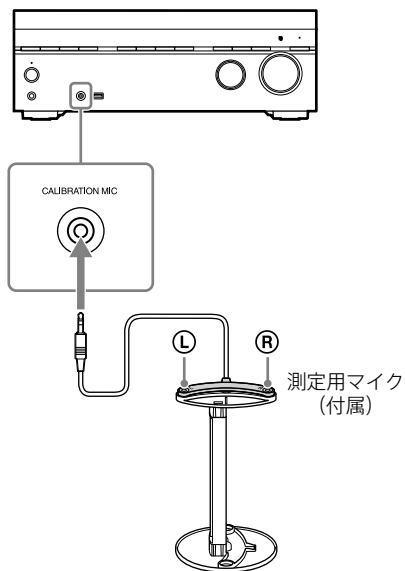
ご注意

- 無線接続の場合、サーバー上の音声再生が途切れる場合があります。
- 無線接続時は、良好な接続状態を得るために、無線LANアンテナを2本とも立ててのご使用をおすすめします。

本機の準備をする

- 1 リモコンに電池を入れる(7ページ)。
- 2 マイクスタンドを組み立てる(7ページ)。
- 3 マイクスタンドと測定用マイクを視聴位置に設置する。
測定用のマイクが耳の位置と同じ高さになるように、マイクスタンドの位置を調整してください。

準備する



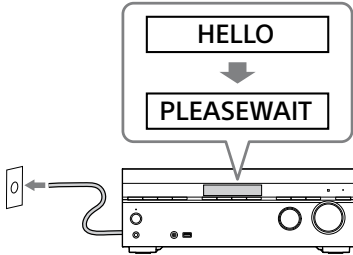
ご注意

- 測定用マイクのプラグは、CALIBRATION MIC端子の奥までしっかり差し込んでください。測定用マイクがしっかりつながれていないと、正しく測定できないことがあります。
- 測定用マイクは、L (左)とR (右)が同じ高さになるよう水平に設置してください。

4 電源コードをコンセントにつなぐ

電源コードをつなぐ前に、スピーカーや他の機器が接続されていることを確認してください。

表示窓に「HELLO」が表示され、その後「PLEASEWAIT」の表示に切り替わります。表示が消えるまで、本機の電源を入れることはできません。



かんたん設定を使って初期設定を行う

本機の電源を初めて入れたときや初期化後に電源を入れたときには、テレビ画面にかんたん設定画面が表示されます。

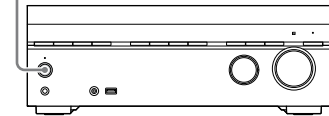
ご注意

表示窓の表示を使ってかんたん設定の操作はできません。

1 テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機に切り換える。

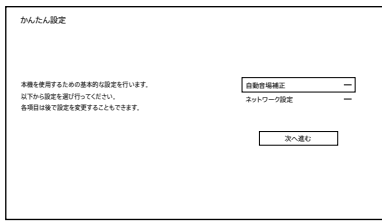
2 ㊦ (電源) ボタンを押して本機の電源を入れる。

㊦ (電源) ボタン

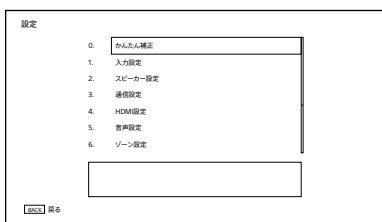


リモコンの ㊦ (電源) ボタンを押して本機の電源を入れることもできます。

3 画面の指示に従ってリモコンの ▲/▼/←/→ ボタンで項目を選び、 ⊕ ボタンで決定する。



かんたん設定画面が表示されない場合、手動で表示させるには、HOMEボタンを押して[設定] - [かんたん設定]を選びます。



かんたん設定でできること

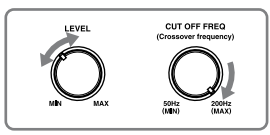
かんたん設定を行うことで以下の設定ができます：

- 1: 自動音場補正
 お使いのスピーカーシステムを確認し、スピーカー構成と配置に応じて自動音場補正を行います。
- 2: ネットワーク設定
 ネットワークへの接続方法を選択し、ネットワークに接続するための設定を行います。

自動音場補正(D.C.A.C. IX)を行う

自動音場補正を行う前に

- ヘッドホンを抜いてください。
- 測定用マイクとスピーカー間の障害物を取り除いてください。
- [Bluetoothモード]が[送信]に設定されている場合は設定を解除してから自動音場補正を行ってください。
- 正しい測定をするために、周囲の環境が静かであること、騒音がないことを確認してください。
- スピーカー出力を「SPK OFF」以外の設定にしてください。「フロントスピーカーを選ぶ」(44ページ)をご覧ください。
- アクティブサブウーファーの設定を確認してください。
 - アクティブサブウーファーを使用する前に、電源を入れてアクティブサブウーファーの音量を上げます。音量は、ボリューム (LEVEL) つまみを半分よりやや小さめの位置にしてください。
 - クロスオーバー周波数機能付のアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、設定値を最大にしてください。
 - オートスタンバイ機能付のアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、オフ(無効)に設定してください。



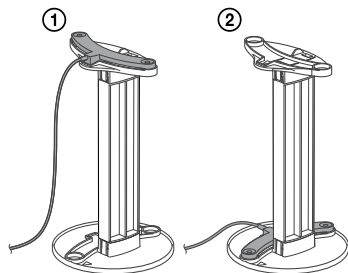
ご注意

お使いのアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

自動音場補正の動作について

自動音場補正は2回実行されます。

- 1回目の測定：マイクをマイクスタンドの上皿の上に置いてください(①)。
- 2回目の測定：マイクを90度回転させて下のスタンド台に置いてください(②)。



ご注意

- 補正中中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲の子供に充分配慮してください。
- 自動音場補正を行う前にミュート(消音)機能がオンになっているときは、ミュート(消音)機能が自動的に解除されます。
- ダイポールなどの特殊なスピーカーが使われている場合は、正しい測定ができなかったり、自動音場補正ができなかったりすることがあります。
- 測定が失敗した場合は、メッセージに従い、[リトライ]を選びます。エラーコードおよび警告メッセージの詳細については、「自動音場補正測定後のメッセージリスト」(64ページ)をご覧ください。

自動音場補正をキャンセルするには

測定中に以下の操作などを行うと自動音場補正の測定がキャンセルされます。

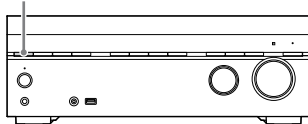
- 電源(電源)ボタンを押す。
- リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
- リモコンのHOMEボタン、AMP MENUボタン、HDMI OUTボタンまたは消音(消音)ボタンを押す。
- 本体前面のSPEAKERSボタンを押す。

- 音量を調節する。
- PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。

自動音場補正について詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。

フロントスピーカーを選ぶ

SPEAKERSボタン



SPEAKERSボタンを繰り返し押す

どの端子が選ばれているか表示窓のインジケーターで確認できます。

- **SPA**：スピーカー FRONT A端子に接続したスピーカー
- **SPB***：スピーカー SURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子に接続したスピーカー
- **SPA+B***：スピーカー FRONT Aとスピーカー SURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子の両方に接続したスピーカー (パラレル接続)
- (表示なし)：「SPK OFF」と表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

* 「SPB」または「SPA+B」を選ぶには、
[スピーカー設定]の
[サラウンドバックスピーカー割り当て]を
[フロントB]に設定してください。

ご注意

ヘッドホンを接続しているときはこの設定は変更できません。

映像や音声を楽しむ

AV機器を再生する/
FMラジオを聞く

AV機器を本機に接続して、映像や音声などのさまざまなコンテンツを楽しむことができます。

また、内蔵のFMチューナーで、高音質のFMラジオ放送を楽しむことができます。

1 再生したい機器の電源を入れる。

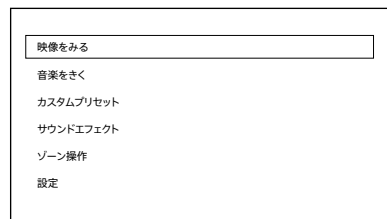
2 テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機をつないでいるHDMI入力に切り替える。

3 本機の電源を入れる。

4 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

テレビによっては、ホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。



5 $\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ ボタンを押して [映像をみる] または [音楽をきく] を選び、 \odot ボタンを押す。

メニュー項目のリストが表示されます。

6 再生したい機器を選び、再生を開始する。

[FM TUNER] など外部入力以外の入力を選んだ場合は、画面の説明に従って操作してください。操作について詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

7 \blacktriangleleft (音量) +/- ボタンを押して音量を調節する。

本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使うこともできます。

ご注意

次に電源を入れたときに、大きな音が出てスピーカーを破損しないように、本機の電源を切るときは音量を下げてください。

ちょっと一言

- 本体前面のINPUT SELECTORつまみを回すか、リモコンの入力切り替え用ボタンを押して使いたい機器を選ぶこともできます。
- 音量をすばやく上げ下げするには以下の操作を行います。
 - 本体前面のMASTER VOLUMEつまみをすばやく回す。
 - \blacktriangleleft (音量) +/- ボタンのいずれかを押しただままにする。
- 音量を微調節するには以下の操作を行います。
 - 本体前面のMASTER VOLUMEつまみをゆっくり回す。
 - \blacktriangleleft (音量) +/- ボタンのいずれかを短く押す。

他の部屋で映像や音声を楽しむ

マルチゾーン機能を使う

マルチゾーン機能でできること

マルチゾーン機能とは、本機につないだ機器の映像や音声を別の部屋でも楽しむことができる機能です。

マルチゾーン機能について詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。

メインゾーン：

本機を設置している場所です。本機につないだすべての機器の入力を選べます。

ゾーン2：

HDMI IN端子から入力される映像や音声のみ視聴できます。

ゾーン3：

音声IN端子、メインゾーンで再生中の音声、FMラジオの音声を視聴することができます。ゾーン3では映像を見ることはできません。

ご注意

- [USB]、[Home Network]、[Bluetooth Audio]、[Chromecast built-in]、[Spotify]、[AirPlay]をゾーン3で楽しむ場合は、ゾーン3の入力として[SOURCE]を選択し、メインゾーンの入力を切り替えてください。
- ゾーン3で外部入力(SAT/CATV、AUX、TV、SA-CD/CD)を選択したときは、音声IN端子につないだ機器の音声が再生されます。光デジタル音声IN TV端子、同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力を再生する場合は、メインゾーンで対象の入力を選び、ゾーン3で[SOURCE]を選択してください。
- [音声設定]の[DSDネイティブ再生]を[入]に設定すると、[USB]および[Home Network]のDSDコンテンツの音声はゾーン3のスピーカーからは出力されません。

ゾーン2やゾーン3の設定を行う

- 1 それぞれのゾーンに配置したテレビやアンプ、スピーカーをつなぐ(37、39ページ)。
- 2 ゾーン2にあるアンプとテレビ、またはゾーン3にあるアンプの電源を入れる。
- 3 メインゾーンにあるテレビと本機の電源を入れる。
- 4 HOMEボタンを押す。
- 5 [設定]-[ゾーン設定]の順に選ぶ。
- 6 [ゾーン2設定]または[ゾーン3設定]のどちらか設定したいゾーンを選ぶ。
- 7 画面の指示に従って接続と設定を完了する。

ゾーン2やゾーン3で映像や音声を楽しむ

- 1 視聴したいゾーンを選ぶ。
リモコンのZONE 2 (電源) ボタンまたはZONE 3 (電源) ボタンを押します。
- 2 操作する対象のゾーンを選び、出力したいソース信号を選ぶ。
① リモコンのZONE 2ボタンまたはZONE 3ボタンを押します。
② ZONE 2ボタンまたはZONE 3ボタンが赤く点灯している間に、入力切り替え用ボタンを押してソース信号を選びます。
- 3 選んだ入力機器の再生を開始する。
- 4 音量を調節する。

ゾーン2の機器を視聴する場合

接続している機器側(TVまたはアンプ)で音量を調節します。

ゾーン3の機器を視聴する場合

- ① リモコンのZONE 3ボタンを押します。
- ② ZONE 3ボタンが赤く点灯している間に、 \blacktriangleleft (音量) +/− ボタンを押して音量を調節します。

ちょっと一言

- ゾーン2で再生できるのはHDMI IN端子からの入力のみです。[SOURCE]を選択しているときは、メインゾーンで選択中のHDMI IN端子の映像と音声再生されます。
- ゾーン3でメインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、[SOURCE]を選んでください。

ゾーン機能を終了するには

リモコンのZONE 2 (電源) ボタンまたはZONE 3 (電源) ボタンで対象のゾーンの電源を切ります。

ゾーン2 / ゾーン3で選択可能な入力と機能制限

入力	ゾーン2	ゾーン3
GAME	● ^{1), 3)}	—
MEDIA BOX	● ^{1), 3)}	—
BD/DVD	● ¹⁾	—
SAT/CATV	● ¹⁾	音声入力のみ
VIDEO	● ^{1), 3)}	—
AUX	—	音声入力のみ
TV	—	音声入力のみ
SA-CD/CD	● ^{1), 3)}	音声入力のみ
SOURCE	● ^{2), 3)}	●
BLUETOOTH	—	—
FM TUNER	—	●
USB	—	—
Spotify Connect	—	—
Chromecast built-in	—	—
360RAcast	—	—
AirPlay	—	—

- 1) HDMI IN端子に接続した機器からの入力信号のみ再生。[入力設定]メニューの[入力モード]を[自動]以外に設定している場合は、選択できません。
- 2) HDMI IN端子に接続した機器からの入力信号のみ再生。
- 3) [HDMI設定]の[HDMI OUT Bモード]を[ゾーン2]に設定して使用する場合、再生できる映像信号は以下までに制限されます。
 - GAME、MEDIA BOX : 4K/60p 4:4:4
 - VIDEO、SACD/CD : 4K/60p 4:2:0

音響効果を楽しむ

360立体音響を楽しむ

360スペーシャルサウンドマッピング機能を使うと、実際よりも広い空間に多くのスピーカーを配置したような、驚きの360立体音響体験を楽しめます。

正確な音場を再現するために、事前に自動音場補正(43ページ)を行っておく必要があります。

1 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [サウンドエフェクト] - [360スペーシャルサウンドマッピング]を選び、[入]に設定する。

ご注意

- 自動音場補正(43ページ)を行わないと、[360スペーシャルサウンドマッピング]を[入]にできません。
- BLUETOOTH送信モードでBLUETOOTH機器とつないでいるときは、[360スペーシャルサウンドマッピング]設定は無効になります。
- ヘッドホンが接続しているときはこの設定は変更できません。
- [スピーカー設定]で、お使いのスピーカー構成に合わせてスピーカーパターンを選んでください(20ページ)。
- 以下のサウンドフィールドを選んでいるときに有効となります。
 - [マルチステレオ] (2チャンネル音源以外)
 - [A.F.D.]
 - [A.F.D. Movie]
 - [オーディオエンハンサー] (2チャンネル音源以外)

ちょっと一言

- リモコンの360SSMボタンでも360スペーシャルサウンドマッピング機能のオン/オフができます。

音場を選ぶ(サウンドフィールド)

お使いのスピーカー構成や音声(コンテンツ)、またはお好みに合わせてサウンドフィールドを選ぶことができます。これにより、音場効果が付加されたサウンドを楽しむことができます。

1 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [サウンドエフェクト] - [サウンドフィールド]を選ぶ。

3 +/+ ボタンを押して、お好みのサウンドフィールドを選び、⊕ ボタンを押す。

映画には、[MOVIE]と名前の付いているサウンドフィールド、音楽には、[MUSIC]と名前の付いているサウンドフィールドをおすすめします。

各サウンドフィールドについての詳細は「選べるサウンドフィールドとその効果」(52ページ)をご覧ください。

ご注意

- 以下の場合、自動的にヘッドホン用のサウンドフィールド(ヘッドホン(2ch))に切り替わります。
 - PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。
 - BLUETOOTHヘッドホンまたはBLUETOOTHスピーカーと接続する。
- 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、本機は実際の入力信号のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生する場合があります。
- サウンドフィールドの設定によっては、スピーカーまたはアクティブサブウーファーから音声が出力されない場合があります。

ちょっと一言

以下の方法でもサウンドフィールドを選ぶことができます。

- リモコンの2CH/MULTIボタンまたはMOVIEボタン、MUSICボタンを押す。
- 本体前面の2CH/MULTIボタンまたはMOVIEボタン、MUSICボタンを押す。

サウンドフィールドとスピーカー出力の関連性

下の表は、選んだサウンドフィールドによってどのスピーカーから音声出力されるかを示しています。

2chコンテンツ

サウンドフィールド		表示窓の表示	フロント スピー カー	センター スピー カー	S- センター スピー カー (TV)	サラウ ンド スピー カー	サラウ ンド バック スピー カー	アクティ ブサブ ウー ファー	ハイ ト スピー カー
2CH/ MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	—	—	—	—	—	—
	マルチ ステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○ ¹⁾	○
	ダイレクト (アナログ 入力)	DIRECT	◎	—	—	—	—	—	—
	ダイレクト (その他)	DIRECT	◎	—	—	—	—	○ ²⁾	—
	A.F.D. (Auto Format Decoding)	A.F.D.	◎	●	●	●	●	○ ²⁾	●
MOVIE	A.F.D. Movie	A.F.D. MOVIE	◎	○	○	○	○	○ ¹⁾	○
	ドルビーモード ³⁾	DOLBY MODE	◎	○	○	○	○	○ ¹⁾	○
	DTS:Xモード	DTS:X MODE	◎	○	○	○	○	○ ¹⁾	○
MUSIC	オーディオ エンハンサー	A.ENHANCER	◎	—	—	—	—	○ ²⁾	—

—：音声出力されません。

◎：音声出力されます。

○：スピーカーパターンの設定および再生コンテンツによっては音声出力されます。

●：ドルビー系ストリームとDTS系ストリームの場合、スピーカーパターン設定によって音声出力されます。リニアPCM、DSD、AACの場合は音声出力されません。

1) 以下の条件を満たしている場合に音声出力されます。

- アクティブサブウーファーが接続されている。
- アクティブサブウーファーありのスピーカーパターン([x.1])が設定されている。

2) 以下の条件を満たしている場合に音声出力されます。

- アクティブサブウーファーが接続されている。
- アクティブサブウーファーありのスピーカーパターン([x.1])が設定されている。
- [スピーカー設定]の[サイズ]が[小]に設定されている。

マルチチャンネルコンテンツ

サウンドフィールド		表示窓の表示	フロント スピー カー	センター スピー カー	S- センター スピー カー (TV)	サラウ ンド スピー カー	サラウ ンド バック スピー カー	アクティ ブサブ ウー ファー	ハイト スピー カー
2CH/ MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	—	—	—	—	—	—
	マルチ ステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○	○
	ダイレクト	DIRECT	◎	○	○	○	○	○	○
	A.F.D. (Auto Format Decoding)	A.F.D.	◎	○	○	○	○	○	○
MOVIE	A.F.D. Movie	A.F.D. MOVIE	◎	○	○	○	○	○	○
	ドルビーモード	DOLBY MODE	◎	○	○	○	○	○	○
	DTS:Xモード	DTS:X MODE	◎	○	○	○	○	○	○
MUSIC	オーディオ エンハンサー	A.ENHANCER	◎	○	○	○	○	○	○

—：音声が出力されません。

◎：音声が出力されます。

○：スピーカーパターンの設定および再生コンテンツによって音声が出力されます。

ご注意

音声が聞こえない場合は、すべてのスピーカーが正しいスピーカー端子にしっかりとつながれていること(19ページ)と正しいスピーカーパターンが選ばれていること(20ページ)を確認してください。

選べるサウンドフィールドとその効果

サウンドフィールド		表示窓の表示	サウンドフィールドの効果
2CH/ MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	2チャンネル音声信号を、サラウンド効果を加えずに再生できます。モノラル音声信号やマルチチャンネル音声信号は、2チャンネルに変換して再生します。 2本のフロントスピーカーのみで、バーチャルサラウンド効果を加えずに音声信号をそのまま再生したいときに適しています。フロント左/右の2本のスピーカーのみから音が出ます。アクティブサブウーファールからは音が出ません。
	マルチステレオ	MULTI ST.	接続されているすべてのスピーカーから音声を出力します。2チャンネル音声信号やモノラル音声信号の場合は、サラウンド効果を加えずに、すべてのスピーカーから出力します。マルチチャンネル音声信号の場合は、スピーカーの設定やコンテンツによって、一部のスピーカーからは音声が出力されないことがあります。
	ダイレクト	DIRECT	すべての音声信号を、サラウンド効果を加えずに再生できます。
	A.F.D. (Auto Format Decoding)	A.F.D.	入力された音声信号に応じて、適切な処理方法でデコードし、再生できます。
MOVIE	A.F.D. Movie	A.F.D. MOVIE	ストリームに応じた、最適な(推奨の)処理をします。サラウンドを楽しむためのアップミキサーも同時に処理します。
	ドルビーモード	DOLBY MODE	設定されたスピーカーレイアウトに合うように、ドルビーのアップミキサーやバーチャル技術を使用して再生します。
	DTS:Xモード	DTS:X MODE	設定されたスピーカーレイアウトに合うように、DTSのアップミキサーやバーチャル技術を使用して再生します。
MUSIC	オーディオエンハンサー	A.ENHANCER	ソニーオリジナルのDSEE Ultimate (Digital Sound Enhancement Engine Ultimate)により、既存の音源をハイレゾ相当の情報量をもつ高解像度音源にアップスケールし、レコーディングスタジオやコンサートの臨場感を再現します。DSEE Ultimateは、下記の端子から入力されたサンプリング周波数が44.1 kHzまたは48 kHzの2チャンネル音源にのみ働きます。 <ul style="list-style-type: none"> - HDMI IN端子 - HDMI OUT A (TV) 端子* - 光デジタル音声IN TV端子 - 同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子
Headphone	ヘッドホン (2ch)	HP 2CH	PHONES端子にヘッドホンをつないだとき、BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーをつないだときに自動的に選ばれます。(その他のサウンドフィールドは選べなくなります。) 2チャンネル音声信号は、サラウンド効果を加えずに再生され、モノラル音声信号やマルチチャンネル音声信号は2チャンネルに変換して再生されます。

* eARCまたはARC信号入力

ご注意

- サラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーをつないでいるときに、[ダイレクト]を選んで5.1チャンネルの音声を再生すると、音声フォーマットによっては7.1チャンネルのサラウンドシステムのように、サラウンドバックスピーカーからサラウンドスピーカーと同じ音声が出力されます。サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの音声レベルは、自動的に最適なバランスに調節されます。
- [マルチステレオ]、[A.F.D.]、[A.F.D. Movie]または[ドルビーモード]以外のサウンドフィールドを選んでいるときは、ドルビーアトモスはDolby TrueHDまたはDolby Digital Plusとしてデコードされます。

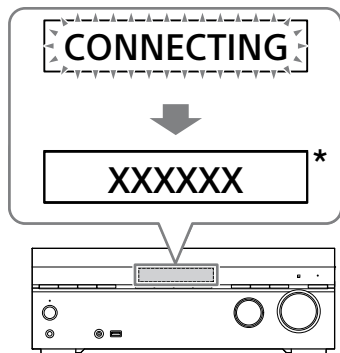
BLUETOOTHヘッドホンやスピーカーで聞く

1 HOMEボタンを押す。
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [設定] - [Bluetooth設定]
- [Bluetoothモード]で[送信]を選ぶ。

3 ヘッドホンやスピーカーの電源を入れて、機器登録(ペアリング)モードにする。

4 [Bluetooth設定]の
[機器リスト]からヘッドホン名
またはスピーカー名を選ぶ。
機器名が見つからない場合は、[検索]
を選んでください。
本体表示窓で「CONNECTING」が点滅し、
ヘッドホン名またはスピーカー名が
表示されます。ペアリングが終了し
ます。



* 「XXXXXX」は検知されたBLUETOOTH機器名です。

5 入力切り替え用ボタンを押して、
使いたい入力を選ぶ。

BLUETOOTHヘッドホンまたはスピーカーから音声が出力されます。本機からは音声が出力されません。

6 BLUETOOTHヘッドホンまたは
スピーカーの音量を調節する。
本機およびリモコンからの音量調節は、
BLUETOOTHヘッドホンまたはスピー
カーにのみ働きます。

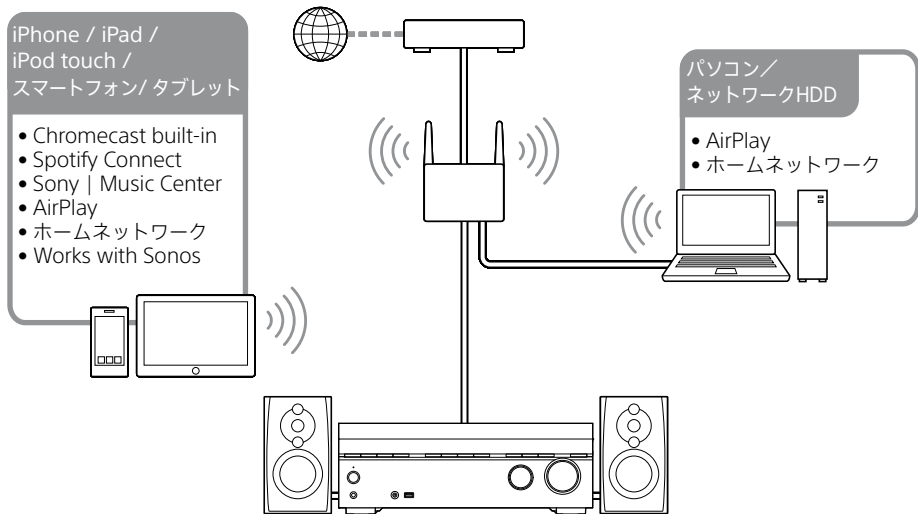
ご注意

- BLUETOOTHモードの設定を受信モードから送信モードに切り替えた場合、本機はBLUETOOTH機器と再接続します。再接続は、リモコンでも操作できます。BLUETOOTH TX/RXボタンを押して送信モードへ切り替えると、ただちに本機はBLUETOOTH機器と再接続します。
- BLUETOOTHモードは、リモコンのBLUETOOTH TX/RXボタンでも送信モードと受信モードを切り替えることができますが、表示窓に「NOT. USE」が表示されているときは切り替えることはできません。すでにBLUETOOTH機能を使用していないか確認してください。
- PHONES端子にヘッドホンが接続されているときは、BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーの接続はできません。

ネットワーク機能を使ってできること

有線または無線でホームネットワークに接続しているパソコン、ネットワークHDD（ハードディスクドライブ）、iPhone/iPad/iPod touch、あるいはその他のスマートフォンやタブレットの音声／音楽コンテンツを再生して楽しむことができます。

ストリーミングサービス対応アプリをインストールしたスマートフォンを操作して、本機でストリーミングを再生することができます。



映像や音声を楽しむ

• Chromecast built-in™

Chromecast対応アプリから音声／音楽コンテンツを選択し、本機で再生することができます。

360 Reality Audioに対応したコンテンツを再生することもできます。

• Spotify Connect

Spotifyアプリから音声／音楽コンテンツを選択し、本機で再生することができます。スマホ、タブレット、パソコンをリモコンにして、Spotifyで音楽を楽しめます。詳しくはspotify.com/connectをご覧ください。

• Sony | Music Center

Sony | Music Centerを使って、本機をワイヤレスで操作できます。

• AirPlay

本機はAirPlayに対応しています。iPhone/iPad/iPod touchあるいはiTunesライブラリの音声／音楽コンテンツを再生して楽しむことができます。

• ホームネットワーク

ホームネットワーク上のサーバー機器のコンテンツを再生することができます。

• Works with Sonos

Sonosアプリを使って、Sonos製品の音声／音楽コンテンツを本機で再生することができます。

ご注意

スマートフォンによるコンテンツへの以下の遠隔操作は、本機が見える位置からのみ行ってください。

- 再生／停止／一時停止
- 曲送り／曲戻し
- 音量の調節
- 消音
- リピート／シャッフル再生

その他

消費電力を抑える

以下のとおり設定すると、スタンバイ時の消費電力を抑えられます。

- [HDMI設定]メニューの[スタンバイスルー]を[切]にする。
- [本体設定]メニューの[ネットワーク/Bluetoothスタンバイ]を[切]にする。
- [ゾーン操作]メニューの[ゾーン2]または[ゾーン3]の[機能]を[切]にする。

ご注意

Chromecast built-in機能の使用に同意すると、[ネットワーク/Bluetoothスタンバイ]は自動的に[入]に設定されます。

お買い上げ時の設定に戻す

「困ったときは」(59ページ)の対処で症状が改善されない場合は、本機を初期化してください。

- 1 HOMEボタンを押す。
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

- 2 [設定] - [設定初期化]を選ぶ。

- 3 [すべての設定]を選ぶ。

- 4 [実行]を選ぶ。

初期化をキャンセルするには

手順4で[中止]を選びます。

ホームメニューで本機を初期化できない場合

- 1 本体前面の \odot (電源)ボタンを10秒間押したままにする。
設定が初期化されます。

ご注意

初期化により、別売のワイヤレスリアスピーカー/サブウーファーとの接続が切断される場合があります。その場合は、別売のワイヤレスリアスピーカー/サブウーファーに付属の取扱説明書をご覧ください。

ソフトウェアのアップデートをする

ソフトウェアを最新バージョンにアップデートすることにより、最新の機能を楽しむことができます。

以下の場合に新しいソフトウェアが利用できます：

- 表示窓に「UPDATE」のインジケーターが点灯したとき。
- [ソフトウェアアップデート通知]を[入]に設定時に、テレビ画面にメッセージが表示されたとき。

ご注意

ダウンロードとアップデートの動作が終了するまで、電源を切ったり、電源コードおよびLANケーブルを抜かないでください。誤作動の原因となることがあります。

- 1 別売のソニー製ワイヤレスリアスピーカーやサブウーファーをお使いの場合は、それぞれのスピーカーの電源を入れ、本機と接続が確立していることを確認する。

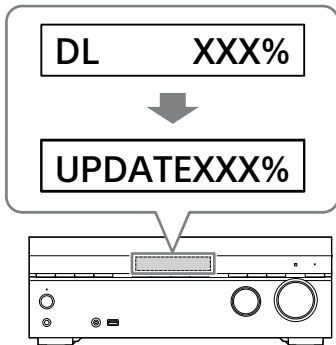
別売のワイヤレスリアスピーカーやサブウーファーの電源ランプが緑色に点灯します。

2 HOMEボタンを押す。
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

3 [設定] -
[ソフトウェアアップデート]を選ぶ。

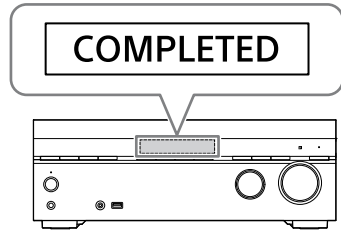
4 [ネットワークアップデート]または[USBアップデート]を選ぶ。
[USBアップデート]を選んだ場合、以下のカスタマーサポートサイトをご覧ください。
<https://www.sony.jp/support/audio/>

5 ソフトウェアのアップデートの進捗状況を確認する。



進捗率がパーセンテージ(「XXX%」)で表示されます。

ソフトウェアの読み込みの状況は、ネットワークアップデートの場合は「DL ***%」、USBアップデートの場合は「RD ***%」と表示されます。



アップデートが終了すると、表示窓に「COMPLETED」と表示され、本機は自動的に再起動します。

ご注意

- アップデート終了までに最長で約20分かかります。
- ソフトウェアアップデート後は、前のバージョンに戻すことはできません。
- 自動的にソフトウェアアップデートを実行させたい場合は、[自動アップデート]を[入]に設定してください。アップデートの内容によっては、[自動アップデート]が[切]に設定されていてもアップデートが実行される場合があります。詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。
- 別売のソニー製ワイヤレスリアスピーカーやサブウーファアのアップデートがうまくいかない場合は、本機の近くに移動させてアップデートを行ってください。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、次の順序で対処してください。

1 本書やヘルプガイドで、該当するトラブルと解決方法を調べる。

「困ったときは」に、正常に動作しないときの対処方法を記載しています。本書に記載していない機能については、ヘルプガイドに記載しています。



<http://rd1.sony.net/help/ha/strtaan10/ja/>



2 サポートサイトで、該当するトラブルと解決方法を調べる。

サポートサイトには、最新のサポート情報やよくある質問とその回答を記載しています。

<https://www.sony.jp/support>



3 本機を初期化する (57ページ)。

本機のすべての設定がお買い上げ時の状態に戻ります。



4 それでも正常に動作しない場合は、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店に問い合わせる。

全体

本機の電源が自動的に切れてしまう

- [自動電源オフ]が[入]に設定されている場合は、[切]に設定してください。
- 「PROTECTOR」 / 「THERMAL」が働いています (63ページ)。

表示窓の表示が消えてしまう

- 本体前面のPURE DIRECTランプが点灯していたら、PURE DIRECTボタンを押してこの機能をオフにします。
- 本体前面のDIMMERボタンを押して表示窓の明るさを調節します。

映像

テレビ画面に映像が表示されない

- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、視聴したい入力を選んでください。
- お使いのテレビを正しい入力に切り替えてください。
- ケーブルが機器に正しくしっかりつながれていることを確認してください。
- 本機とテレビをつないでいるHDMIケーブルを本機、テレビ両方から抜き、接続し直してください。
- [HDMI設定]メニューで、選ばれている入力の[HDMI信号フォーマット]の設定を変更してください。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。
- 再生機器の設定をする必要があります。詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。

- 本機のHDMI映像信号出力が「HDMI OFF」に設定されている場合は、リモコンのHDMI OUTボタンを押して、「HDMI A」または「HDMI B」、「HDMI A+B」に設定します。
- HDCP2.2またはHDCP2.3で著作権保護されているコンテンツを再生する場合は、本機をテレビのHDCP2.2またはHDCP2.3対応のHDMI入力端子に接続してください。

テレビ画面に4Kまたは8Kのコンテンツが表示されない(期待した解像度で表示されない)

- テレビまたはビデオ機器によっては4Kまたは8Kのコンテンツが表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。
- 18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- お使いのテレビに「HDMI信号フォーマット」に相当するメニュー(高帯域幅を必要とする映像信号の受信可否を決める設定メニュー)がある場合、テレビ側の設定を確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 必ず本機を4Kまたは8Kに対応したテレビ、またはビデオ機器のHDMI入力端子につないでください。4Kまたは8K解像度のビデオコンテンツなどの再生機器を使うときは、必ずHDMIケーブルを再生機器のHDCP2.2またはHDCP2.3対応のHDMI端子につないでください。
- 本機とテレビをつないでいるHDMIケーブルを本機、テレビ両方から抜き、接続し直してください。

- お使いの機器を接続する本機のHDMI入力端子によって、対応する映像信号が異なります。詳しくは、「HDMI端子が対応している映像信号について」(35ページ)をご覧ください。

テレビ画面にホームメニューが表示されない

- テレビを本機のHDMI OUT端子に接続している場合のみホームメニューが表示できます。
- テレビをHDMI OUT B/ZONE 2端子につなぐ場合、[HDMI設定]の[HDMI OUT Bモード]を[メイン]に設定し、HDMI OUTボタンを押して「HDMI B」または「HDMI A+B」を選んでください。
- HOMEボタンを押してホームメニューを表示させてください。
- テレビが正しくつながれていることを確認してください。
- 本機とテレビをつないでいるHDMIケーブルを本機、テレビ両方から抜き、接続し直してください。
- テレビによってはホームメニューがテレビ画面に表示されるまで時間がかかる場合があります。

HDR (High Dynamic Range) コンテンツがHDRのまま表示されない

- テレビまたはビデオ機器によってはHDRコンテンツがHDRのまま表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。
- テレビとビデオ機器の両方がHDRに対応していても、本機の設定によっては、信号の帯域が足りないためにHDRコンテンツをHDRのまま出力できない場合があります。その場合は、[HDMI設定]メニューで、選ばれている入力[HDMI信号フォーマット]を[拡張フォーマット]もしくは[拡張フォーマット(4K120, 8K)]に設定してください。

音声

どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべてのケーブルが本機、スピーカーその他の機器の入力／出力端子につながれていることを確認してください。
- 本機とすべての機器の電源が入っていることを確認してください。
- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみが「VOL MIN」になっていないことを確認してください。
- 本体前面のSPEAKERSボタンを押して、「SPK OFF」以外の設定を選んでください(44ページ)。
- ヘッドホンが本機につながれていないことを確認してください。
- ※ (消音)ボタンを押してミュート(消音)機能をキャンセルしてください。
- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、視聴したい入力を選んでください。
- テレビのスピーカーから音声を聞きたい場合は、[HDMI設定]メニューの[音声信号出力]を[テレビ+アンプ]に設定してください。マルチチャンネル音声ソースを再生できない場合は、[アンプ]に設定してください。この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。
- [Bluetoothモード]を[送信]以外にしてください。
- [音声設定]の[DSDネイティブ再生]を[切]に設定してください。DSDネイティブ再生時は、信号源として割り当てられたスピーカーで再生する動きとなるため、対象のスピーカーが設置されていないと再生することができません。またゾーン出力時に行うダウンミックス処理も動作しないためゾーン出力ができません。

ゾーン2またはゾーン3からの再生時に再生したい入力を選択できない

- ゾーン2とゾーンからの再生時には再生可能な入力に制限があります。詳しくは、「ゾーン2 / ゾーン3で選択可能な入力と機能制限」(47ページ)をご覧ください。

サブウーファー、センタースピーカーから音が出ない

- 再生する信号および設定によって、対象のスピーカーから音が出ないことがあります。
- コンテンツに応じて適切なサウンドフィールドが選ばれていることを確認してください。サウンドフィールドとスピーカー出力の関連性について詳しくは、「サウンドフィールドとスピーカー出力の関連性」(50ページ)をご覧ください。

ワイヤレススピーカー (別売) から音が出ない

- DVD-Audio、SA-CD再生時は、著作権保護の制約からワイヤレススピーカーからは音が出ません。有線接続のスピーカー構成に切り替えてください。

ワイヤレススピーカー (別売) の音が不安定

- 本機の周辺にテレビ以外の金属物を置かないでください。ワイヤレススピーカーとの無線機能に影響が出て、音が不安定になります。
- 本機を金属製のラック内に入れしないでください。ワイヤレススピーカーとの無線機能に影響が出て、音が不安定になります。

音が途切れる

- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数またはチャンネル数、音声出力信号の音声フォーマットを切り替えると、音声が途切れることがあります。

eARCまたはARC機能に対応しているHDMI OUT A (TV)端子にテレビを接続しているとき、テレビの音声の本機につないだスピーカーから聞こえない

- [HDMI設定]メニューの [Audio Return Channel] を [eARC] または [ARC] に設定してください。
- お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応していることを確認してください。
- お使いのテレビのeARCまたはARC機能対応の端子にHDMIケーブルがつながれていることを確認してください。
- お使いのテレビがARC機能に対応している場合、[HDMI設定]メニューの [Audio Return Channel] を [ARC] に設定してください。
- お使いのテレビがeARCとARCのどちらにも対応していない場合は、[HDMI設定]メニューの [Audio Return Channel] の設定を [切] に設定し、光デジタル音声ケーブルを使って本機の光デジタル音声IN TV端子にテレビを接続してください。

テレビの映像と本機につないだスピーカーからの音声がずれる

- [音声設定]メニューの [AVシンク] の設定を変更してください。
- テレビ側でAVシンクの設定を行ってください。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。
- サウンドフィールドに [オーディオエンハンサー] を選んでいて、本機の音声が映像より遅れて聞こえるときは、[オーディオエンハンサー] 以外のサウンドフィールドに切り替えてください(50ページ)。サウンドフィールドについて詳しくは、「選べるサウンドフィールドとその効果」(52ページ)をご覧ください。

サラウンド効果が得られない

- コンテンツに応じて適切なサウンドフィールドが選ばれていることを確認してください。サウンドフィールドについて詳しくは、「選べるサウンドフィールドとその効果」(52ページ)をご覧ください。
- スピーカーパターンが [2.0] または [2.1] のときは、[サウンドフィールド] を [A.F.D.]、[A.F.D. Movie]、[ドルビーモード]、[DTS:Xモード] のいずれかに設定し、[アップミキサー] を [自動] に、[バーチャライザー] を [切] 以外にすると、バーチャライザーが動作して、サラウンド効果を得ることができません。

ゾーン2の音量を調節できない

- ゾーン2で選択できる入力、HDMI IN 端子からの入力のみです。音声信号は、HDMI OUT B/ZONE 2 端子から接続機器へそのまま出力されるため、本機側では音量は調節できません。HDMI OUT B/ZONE 2 端子に接続した機器側で音量を調節してください。

本機のS-センター出力端子とテレビのS-センタースピーカー入力端子を接続してテレビをセンタースピーカーとして使用するとき、テレビから音声のセンター成分が出力されない(アコースティックセンター シンク機能が働いていない)

- [HDMI設定]メニューの [HDMI機器制御] が [入] に設定されているか確認してください。
- HOMEボタンを押して [設定] を選び、[スピーカー設定] - [テレビ / スクリーンセンター設定] - [テレビセンタースピーカーモード] を [入] に設定してください。
- サウンドフィールドに [2chステレオ] を選んでいる場合は、テレビのスピーカーから音声は出力されません。

- 音源によっては、テレビのスピーカーから音声が出力されないことがあります。
- ヘッドホン使用時、[Bluetoothモード]を[送信]に設定している場合は、テレビのスピーカーから音声は出力されません。

ネットワーク接続

ネットワークにつながらない

- 有線LAN接続で本機をネットワークに接続したい場合は、LANケーブルが本機につながっていることを確認してください。
- ネットワーク情報を確認してください。接続できない場合は、もう一度ネットワーク接続を設定しなおしてください。
- 本機がネットワークにワイヤレス接続されている場合は、本機と無線LANルーター／アクセスポイントを近づけてもう一度設定を行ってください。
 - 無線LANルーター／アクセスポイントを使っていることを確認してください。
 - 無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
 - 無線LANルーター／アクセスポイントの設定を確認し、もう一度設定をし直してください。機器の設定についての詳細は、機器の取扱説明書をご覧ください。
 - 無線ネットワークは電子レンジ、その他の機器からの電磁気に影響されます。本機をこれらの機器から離してください。

エラーメッセージ

表示窓に「PROTECTOR」／「THERMAL」と表示された

数秒後に本機の電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

- 電圧異常または電源異常が起きています。電源コードを抜いて、30分間おいてもう一度電源コードをつないでください。
- 本機が何かで覆われ、通気孔がふさがれています。通気孔をふさいでいるものを取り除いてください。
- 本体後面に表示されているインピーダンス範囲よりインピーダンスの低いスピーカーをつないでいます。音量を下げてください。
- 電源コードを抜いて30分放置し、本機の温度を下げてから、以下の対策を行ってください。
 - すべてのスピーカーとアクティブサブウーファースのケーブルを抜く。
 - スピーカーの芯線の先端がしっかりねじられていることを確認する。
 - まずフロントスピーカーをつないで、音量レベルを上げ、本機の温度が上がるまで少なくとも30分間操作する。そのあと、他のスピーカーを1台ずつつないで各スピーカーをテストし、どのスピーカーがプロテクションエラーの原因になっているかを確認する。

以上の項目を確認して問題に対処したら、電源コードをつないで本機の電源を入れてください。それでも問題が解決しないときは、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店にお問い合わせください。

テレビ画面に[過電流が発生しました。]と表示される

⚡ (USB) FOR AV PERIPHERALポートからの過電流が検知されました。警告メッセージにあるようにUSB機器を取りはずし、メッセージを閉じてください。

自動音場補正測定後のメッセージリスト

エラー 30

ヘッドホンが挿入されています。ヘッドホンをはずして再測定してください。

エラー 31

SPEAKERS (A / B / A+B / OFF)が"OFF"になっています。SPEAKERS (A / B / A+B / OFF)を音が出る状態にして、再測定してください。フロントスピーカーの選択について詳しくは、「フロントスピーカーを選ぶ」(44ページ)をご覧ください。

エラー 32

- どのチャンネルからも音が出出されませんでした。測定用マイクが破損していないか、本機前面のCALIBRATION MIC端子にマイクが繋がっているかを確認してください。

エラー 34

フロントスピーカー *が正しい位置に設置されていません。マイク、スピーカーの左右が逆に設置されていることが考えられます。

* エラーメッセージ中のスピーカー名は、検出された症状によって異なります。

エラー 35

センタースピーカー *のスピーカーパターン設定と測定結果が一致しません。センタースピーカーのスピーカーパターンと接続を確認してください。

* エラーメッセージ中のスピーカー名は、検出された症状によって異なります。

エラー 36

3次元位置が計測できませんでした。マイクかマイクスタンドがズレた可能性があります。正しい位置に戻してもう一度やり直してください。もし騒音のレベルが高い場合、できるだけ周囲の騒音が少ない状態で測定してください。

エラー 37

- 左か右どちらかのサラウンドスピーカーから音が出出されませんでした。サラウンドスピーカーとして使うワイヤレススピーカーの電源が入っているか確認してください。
- 左か右どちらかのサラウンドバックスピーカーから音が出出されませんでした。サラウンドバックスピーカーとして使うワイヤレススピーカーの電源が入っているか確認してください。
- 接続されたワイヤレススピーカーから音声を出力するには、最新のソフトウェアにアップデートする必要があります。本機のリモコンの [HOME] を押して、「設定」からアップデートを実行してください。

エラー 38

正しく測距できませんでした。スピーカーの位置やマイクの位置を少し移動させてもう1度やり直してください。もし騒音のレベルが高い場合、できるだけ周囲の騒音が少ない状態で測定してください。

警告 40

測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。

警告 41、警告 42

測定用マイクからの入力が過大です。スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。スピーカーと測定用マイクを離して配置してください。本機をプリアンプとしてお使いの場合、つないでいるパワーアンプによってはこのメッセージが表示されることがありますが、そのままお使いいただいて問題ありません。

警告 43

サブウーファアの距離・位相が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。

警告 44

測定は終了しましたが、センタースピーカー *の位置関係がおかしい可能性があります。ヘルプガイドの「スピーカーを設置する」を参照して、スピーカーの位置を確認してください。

* 警告メッセージ中のスピーカー名は、検出された症状によって異なります。

安全のために



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が 入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。



禁止

- ▶ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にご相談ください。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔を ふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または本機を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。電源コンセントに手が届かない場合は、本機のAC入力端子から電源コードを抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所 や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造 をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。



分解禁止

- ▶ 内部の点検や修理は、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にご依頼ください。



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止

本機を日本国外で使わない

交流100 Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。



禁止

- 設置時、本機と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源コードを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➔ 万一、電源コードが傷んだら、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店に交換をご依頼ください。



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



禁止

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、本機が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは足にひっかけると本機の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

掃除やお手入れのときは、力をかけない

掃除やお手入れのときに、本製品の上面に手を置いたり、力をかけたりしないでください。本製品の落下によるけがや破損の原因となります。

設置上のご注意

本機の角でけがをしないようにお気を付けてください。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間が経ってから症状が現れることもあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

- ▶ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- ▶ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



禁止

- ▶ 万一、飲み込んだときはただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れてない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。



禁止

電池が液漏れしたり、異臭がする時にはただちに火気より遠ざけてください。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。



禁止

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。



指示

- ▶ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

使い切ったときや、長期間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示

使用上のご注意

安全について

万一、内部に水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、本機の電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜き、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店にご相談ください。

電源について

- ご使用前に、本機の動作電圧が地域の使用電圧と同じであることを確かめてください。
動作電圧は本体後面の銘板に表示されています。
- 長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。電源コードを壁のコンセントから抜く場合は、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードは正規のサービス店以外で交換しないでください。
- 感電の危険を避けるため、スピーカーケーブルは以下の手順で本機とスピーカーに接続してください。
 - (1) 電源コードをコンセントから抜く。
 - (2) スピーカーケーブルの被覆を10～15 mm剥く。
 - (3) スピーカーケーブルのスピーカーワイヤーに手で触れないように注意して、本機とスピーカーに接続します。
 なお、スピーカーケーブルを本機およびスピーカーから取り外す際は、あらかじめ電源コードをコンセントから抜いて作業してください。

温度上昇について

使用中に本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。特に、大音量で使用し続けると、本体のキャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください*。火傷などのけがの原因となります。

* 本体のキャビネット天板は、触れられないほど熱くなることがあります。

設置について

- 電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。また、本機を以下のような所には置かないでください。
 - ぐらついた台の上や不安定な場所
 - じゅうたんや布団の上
 - 湿気の多い所、風通しの悪い所
 - ほこりの多い所
 - 密閉された所
 - 直射日光が当たる所、温度が高い所
 - 極端に寒い所
 - テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナの使用時に起こりやすくなります。)
- 特殊な塗装(ワックス、油脂、溶剤など)がされた床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残ることがありますのでご注意ください。

操作について

他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源コードを抜いてください。

お手入れのしかたについて

- キャビネットおよびパネル面、ボタンの汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨パッド、クレンザー、ベンジンやアルコールなどの溶媒は使わないでください。
- 可燃ガスエアゾールやスプレーを使用しないでください。清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。

アップデートに関する注意

本機は、有線LANもしくは無線LANでインターネットに接続してご使用になる場合、ソフトウェアを自動で最新にアップデート(更新)する機能を有しています。

アップデートすることで、新しい機能が追加されたり、より便利かつ安定してご使用になることができます。

ソフトウェアを自動でアップデートさせたくない場合は、[自動アップデート]を[切]に設定してください。

ただし、本機能を無効にしても、安定してご使用いただくため等により、ソフトウェアを自動でアップデートすることがあります。

また、本機能を無効にしても、お客様の操作で、システムソフトウェアをアップデートすることは可能です。

詳しい設定方法は「ソフトウェアのアップデートをする」(57ページ)をご確認ください。

ソフトウェアアップデート中は、本機をご使用いただけない場合があります。

インターネット接続に関するご注意

本機をインターネットに接続する場合は、ルーター(インターネットプロバイダーから提供されるルーター機能付きADSLモデムや光回線終端装置、またはWi-Fiアクセスポイントなど)を使用して接続してください。ルーターを使わずに接続すると、セキュリティ上の問題を生じる可能性があります。壁に付いているネットワーク回線用のコンセント機器にルーター機能が付いているか不明な場合は、集合住宅の管理者やインターネットプロバイダーにご確認ください。

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTHの特性ごとに機能を標準化したものです。本機が対応するBLUETOOTHバージョンとプロファイルについては「主な仕様」の「BLUETOOTH部」をご覧ください(78ページ)。

通信有効範囲

見通し距離で約30 m以内で使用してください。以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE 802.11b/g/n) 機器は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺でBLUETOOTH機器を使用すると、電波干渉が発生し、通信速度その他の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機を無線LAN機器から10 m以上離して使う。
- BLUETOOTH機器を10 m以内で使用する場合は、無線LAN機器の電源を切る。
- 本機とBLUETOOTH機器をできる限り近付けて置く。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と同じプロファイルを持つすべてのBLUETOOTH機器とのBLUETOOTH通信を保証するものではありません。

- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIG, Inc. の定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

ワイヤレス技術について

- 本機はワイヤレス機能を内蔵しています。
以下の点に注意してご使用いただき、障害などが発生した場合には、本機のワイヤレス機能を使用しないようにしてください。
また、緊急の場合には、ただちに本機の電源を切ってください。
 - 病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない。電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。
 - 本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない。電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

無線の周波数について

本製品が使用している周波数は、他の無線機器でも使用していることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

2.4 GHz機器使用上の注意事項

本製品の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
3. その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店までお問い合わせください。

2.4DS4/OF4

この無線製品は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式およびOFDM変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。

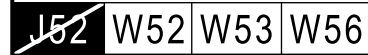
2.4FH4/XX8

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH4はFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。XX8はその他方式を採用し、与干渉距離は80 mです。

本機につなぐルーターなどは、電気通信技術基準に基づく技術基準に適合しているものを利用してください。

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n/ac



IEEE 802.11a/b/g/n/ac準拠
(W52/W53/W56)

本機についてご質問や問題がある場合は、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店へお問い合わせください。

ライセンスについて

- Dolby、ドルビー、Dolby Vision、Dolby Atmos、Dolby Audio及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの商標です。ドルビーラボラトリーズの実施権に基づき製造されています。非公開機密著作物。著作権 1992-2021年 ドルビーラボラトリーズ。不許複製。
- IMAX Corporationのライセンス契約に基づき製造されています。IMAX®は、米国およびその他の国におけるIMAX Corporationの登録商標です。DTSの特許については、<http://patents.dts.com>をご覧ください。DTS, Incのライセンス契約に基づき製造されています。DTS、DTS:X、Virtual:X、およびDTS:Xロゴは、米国およびその他の国におけるDTS, Incの登録商標または商標です。© 2022 DTS, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.
- 「Works with Apple」バッジは、アクセサリが本バッジに記載されたテクノロジー専用に対応し、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。
- 本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。
- GPL または LGPL、その他、本機に含まれるソフトウェアのライセンスについて詳しくは、本機の[設定] - [本体設定] - [ソフトウェアライセンス]をご覧ください。
- 本製品に含まれるソフトウェアには、GPL/LGPL およびソースコードの提供を伴うその他のライセンス条件のもとでライセンスされたソフトウェアが含まれています。GPL/LGPL 等に基づき、ソニーがソースコードを提供すべきソフトウェアのソースコードは以下のサイトからダウンロードできます。DVD-ROM等の有体媒体に記録されたソースコードをご希望の方は、同じく以下のサイトのフォームからお申込み下さい。ソースコードの提供は本製品の最終出荷日から3年以内にご要望を頂いた場合に限りさせていただきます。

<https://oss.sony.net/Products/Linux/>
 なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせは御遠慮ください。

- Spotifyのソフトウェアには下記のサードパーティライセンスが適用されます。
<https://www.spotify.com/connect/third-party-licenses>.

第三者が提供するサービスに関する免責事項

- 本製品に搭載され、または本製品で利用可能なネットワークサービス、コンテンツおよびソフトウェア(オペレーションシステム含む)には、各々の利用条件が適用されません。予告なく提供が中断・終了したり、内容が変更されたり、ご利用に際して別途の登録や料金の支払いが必要になる場合がありますので、ご了承ください。

商標について

- Windows Mediaは米国および/またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。
- LDAC™は、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の商標です。

LDACは、ソニーが開発したハイレゾ音源をBluetooth経由でも伝送可能とする音声圧縮技術です。SBC等の既存Bluetooth向け圧縮技術とは異なり、ハイレゾ音源を低い周波数・低いビット数へダウンコンバートすることなく処理します*。また極めて効率的な符号化やパケット配分の最適化を施すことで、従来技術比約3倍**のデータ量の送信を可能とし、これまでにない高音質のBluetooth無線伝送を実現しています。

* DSDフォーマットは除く。

** 990 kbps (96/48 kHz) または 909 kbps (88.2/44.1 kHz) のビットレートを選択した場合のSBC (Subband Coding) との比較。

- Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニーグループ株式会社及びその子会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

- HDMI®、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。
- Google、Google Play、Google Home、Chromecast built-in は Google LLC の商標です。
- Apple、AirPlay、iPad、iPhoneおよびiPod touch は、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。
- “ブラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴは、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の商標です。
- Wi-Fi®、Wi-Fi Protected Access®およびWi-Fi Alliance®は、Wi-Fi Allianceの登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、および、WPA2™は、Wi-Fi Allianceの商標です。
- Roon Testedとは、SonyとRoonが連携し、RoonソフトウェアとSony製品を一緒に使用することで、最高の体験を提供し、音楽を楽しむことができることを意味します。
- “TRILUMINOS” および“TRILUMINOS” ロゴは、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の登録商標です。
- SpotifyおよびSpotifyロゴはSpotifyグループの商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

本取扱説明書またはヘルプガイドの「困ったときは」の項目をご覧ください。故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときは相談窓口へ

ソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店へご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオ出力時(6 Ω、JEITA) :
165 W + 165 W

サラウンド出力時(6 Ω、JEITA、非同時駆動) :
フロント : 165 W + 165 W
センター : 165 W
サラウンド : 165 W + 165 W
サラウンドバック : 165 W + 165 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック : 6 Ω ~ 16 Ω

高調波ひずみ率

0.09%以下
20 Hz ~ 20 kHz (6 Ω 負荷)
100 W + 100 W

周波数特性

アナログ
10 Hz ~ 100 kHz、+0.5/-2 dB (6 Ω)
(サウンドフィールド、イコライザー、360SSM不使用時)

入力

アナログ

感度 : 500 mV/50 kΩ
SN比* : 105 dB (A、500 mV**)

デジタル(同軸)

インピーダンス : 75 Ω
SN比 : 100 dB (A、20 kHz LPF)

デジタル(光)

SN比 : 100 dB (A、20 kHz LPF)

出力(アナログ)

ZONE 3

電圧 : 2 V/1 kΩ

SUBWOOFER

電圧 : 2 V/1 kΩ

イコライザー

ゲインレベル
±10 dB、1 dBステップ

* INPUT SHORT (サウンドフィールド、イコライザー バイパス時)

** 加重ネットワーク、入力レベル

FM チューナー部

受信範囲

76.0 MHz ~ 108.0 MHz (100 kHzステップ)

アンテナ

FMアンテナ線

アンテナ端子

75 Ω、不平衡

ビデオ部

入力/出力

映像 : 1 Vp-p、75 Ω

HDMI映像部

解像度

- 480p/60 Hz
- 576p/50 Hz
- 720p/60 Hz、50 Hz、30 Hz、24 Hz
- 1080i/60 Hz、50 Hz
- 1080p/120 Hz、100 Hz、60 Hz、50 Hz、30 Hz、24 Hz
- 4K/120 Hz*、100 Hz*、60 Hz、50 Hz、30 Hz、25 Hz、24 Hz
- 8K/60 Hz*、50 Hz*、30 Hz*、25 Hz*、24 Hz*

* GAME (for AUDIO)、MEDIA BOX端子のみ対応

対応

HDCP2.3、HDR (HDR10、Hybrid Log-Gamma、Dolby Vision)、3D、Deep Color、ITU-R BT.2020、eARC/ARC、VRR、ALLM

対応する映像フォーマットについて詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

USB 部

♯ (USB) FOR AV PERIPHERALポート
Aタイプ(USBメモリー接続用)

最大電流

1 A

ネットワーク部

イーサネットLAN

100BASE-TX

無線LAN

適合規格：

IEEE 802.11 a/b/g/n/ac

セキュリティー：

WPA/WPA2-PSK

使用周波数帯域：

2.4 GHz、5 GHz

BLUETOOTH部

通信方式

BLUETOOTH標準規格5.0

出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 1

最大通信距離

見通し距離、約30 m¹⁾

登録台数

10台まで

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯域 (2.4000 GHz ~
2.4835 GHz)

変調方法

FHSS (Freq Hopping Spread Spectrum)

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP (Audio Video Remote Control Profile)

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC、LDAC

対応コンテンツプロテクション

SCMS-T方式

送信範囲 (A2DP)

20 Hz ~ 40 000 Hz (LDACサンプリング周波数 96 kHz、990 kbps 送信)

20 Hz ~ 20 000 Hz (サンプリング周波数 44.1 kHz)

¹⁾ 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。

²⁾ BLUETOOTH標準プロファイルは機器間のBLUETOOTH通信のためのものです。

³⁾ コーデック：音声信号の圧縮、変換のフォーマットです。

⁴⁾ Subband Codecの略です。

ワイヤレストランスミッター／レシーバー部

通信方式

Wireless Sound Specification
version 4.0

使用周波数帯域

5 GHz 帯

変調方式

OFDM

一般

電力規定

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

240 W

スタンバイ時

0.5 W 以下

([スタンバイスルー]、
[ネットワーク/Bluetoothスタンバイ]、
すべてのゾーンの電源が[切]に設定さ
れているとき)

ネットワーク/BLUETOOTHスタンバイ時

3.5 W

([ネットワーク/Bluetoothスタンバイ]
が[入]、かつ[スタンバイスルー]、すべ
てのゾーンの電源が[切]に設定されて
いるとき)

寸法(幅/高さ/奥行き)(約)

430 mm × 156 mm × 331 mm

(最大突起部を含む)

質量(約)

10.3 kg

仕様および外観は、予告なく変更することがあ
ります。

本機は「JIS C 61000-3-2適合品」です。

再生できる音声ファイルの種類

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3)	.mp3
MPEG-H	.mp4
AAC/HE-AAC ¹⁾	.m4a、.aac ²⁾ 、.mp4 ²⁾ 、.3gp ²⁾
WMA9 Standard ¹⁾	.wma
LPCM	.wav
FLAC ¹⁾	.flac
DSF ¹⁾	.dsf
DSDIFF ^{1), 3)}	.dff
AIFF ¹⁾	.aiff、.aif
ALAC ¹⁾	.m4a
Vorbis	.ogg
Monkey's Audio	.ape

¹⁾ ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できないことがあります。

²⁾ ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できません。

³⁾ DSTエンコードされたファイルは再生できません。

ご注意

- ファイルのフォーマットや圧縮状況、録画状態、またはホームネットワークサーバーの状態によって再生できないことがあります。
- パソコンで記録や編集したファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り／早戻しができないことがあります。
- デジタル著作権管理(DRM)などで保護されたファイルは再生できません。
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマストレージクラス(MSC)機器を認識します。

再生できるデジタル音声フォーマット

デコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。以下の音声フォーマットに対応しています。

デジタル音声フォーマット	表示窓の表示	最大デコード・レンダリングチャンネル数	本機との接続
ドルビーデジタル	DD	5.1	同軸デジタル音声、光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
ドルビーデジタルプラス ¹⁾	DD+	7.1	HDMI、eARC、ARC
ドルビーアトモス - ドルビーデジタルプラス ^{1), 2)}	ATMOS	5.1.2、7.1または7.1.2 ⁵⁾	HDMI、eARC、ARC
DTS	DTS	5.1	同軸デジタル音声、光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS 96/24	DTS	5.1	同軸デジタル音声、光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
LPCM	LPCM	7.1、2.0	同軸デジタル音声、光デジタル音声(2.0)、HDMI (7.1)、eARC (7.1)、ARC (2.0)
ドルビー TrueHD ¹⁾	DTHD	7.1	HDMI、eARC
ドルビーアトモス TrueHD ^{1) 2)}	ATMOS	5.1.2、7.1または7.1.2 ⁵⁾	HDMI、eARC
ドルビーアトモス	ATMOS	5.1.2、7.1または7.1.2 ⁵⁾	HDMI、eARC
DTS-ES DISCRETE (DTS-ES Discrete 6.1)	DTS	6.1	同軸デジタル音声、光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS-ES MATRIX (DTS-ES Matrix 6.1)	DTS	6.1	同軸デジタル音声、光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS-HD High Resolution Audio ¹⁾	DTS-HD	7.1	HDMI、eARC
DTS-HD Master Audio ¹⁾	DTS-HD	7.1	HDMI、eARC
DTS Express	DTS-HD	5.1	HDMI、eARC
DTS:X Master Audio ¹⁾	DTS:X	5.1.2、7.1または7.1.2 ⁵⁾	HDMI、eARC
DTS:X ¹⁾	DTS:X	5.1.2、7.1または7.1.2 ⁵⁾	HDMI、eARC
DSD ^{3) 4)}	DSD	5.1	HDMI

¹⁾ 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

²⁾ スピーカーパターンを2.0、2.1、3.0、3.1、4.0、4.1、5.0、5.1のいずれかに設定し、バーチャルモードをオフに設定している場合、ドルビーアトモスはドルビーデジタルプラスまたはドルビー TrueHDとしてデコードされます。

³⁾ ワイヤレスヘッドホンには出力できません。

⁴⁾ 無線接続されたスピーカーからは出力できません。

⁵⁾ [SPKリロケーション/ファントムSB]が[タイプ A]または[タイプ B]に設定されているときのみ。

サポート情報について

本機の最新情報については、以下のホームページをご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/audio/>

「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決方法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。

<https://www.sony.jp/support/faq.html>

型名:STR-AN1000

お問い合わせ窓口

●各種お問い合わせ

様々なお問い合わせ方法を準備しております。

お気軽に LINE、チャット、メールでお問い合わせください。

詳しくは以下のホームページをご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/inquiry.html>



●電話でのお問い合わせ

【使い方相談窓口】

フリーダイヤル:0120-333-020

携帯電話・一部のIP電話:050-3754-9577

【修理相談窓口】

フリーダイヤル:0120-222-330

携帯電話・一部のIP電話:050-3754-9599

FAX: (共通)0120-333-389

ガイダンスに沿って
短縮番号「306」+「#」を押すと、
担当窓口へおつながります。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

 Dolby Atmos

 IMAX[®]
ENHANCED

 HDMI[®]

COMPATIBLE WITH

 Dolby Vision



 LDAC

 roon
TESTED

 Chromecast built-in

 dts[™] X



503702803